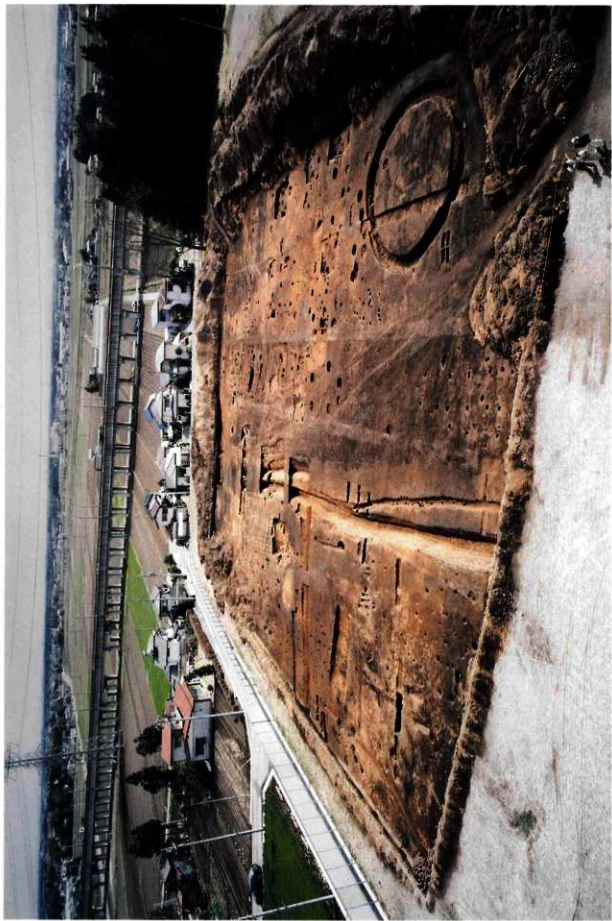


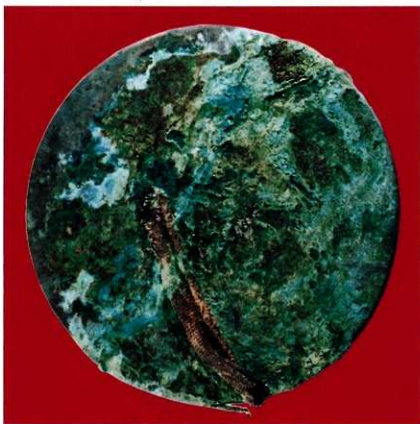
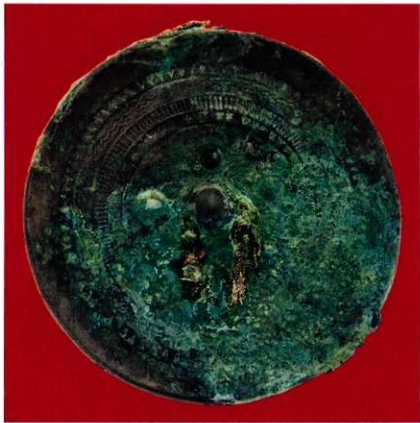
じょう なん ちょう め
城南 3 丁目遺跡

平成8年3月

宇都宮市教育委員会



城南3丁目遺跡全景（西から）



1号墳2号主体部出土銅鏡（上：鏡背、下：鏡面）

序

今回の調査は、宇都宮市の中心にありました御本丸公園スケート場の移転に伴い実施したものです。御本丸公園は中世から近世にかけて宇都宮城の本丸があったところです。そして、ここで報告します城南3丁目遺跡の「城南」とは、宇都宮城の南に在る場所という意味になります。

この地名はその由来からすれば新しく、昭和になってから付けられたのですが、今回の調査で確認された中世の遺跡では、堀により嚴重に囲まれた施設の中から、青磁や石鍋など通常の一般的な集落ではあまり出土しない遺物が発見されました。

また、この近辺に当時の国道とも言える「奥大道」が通っていた可能性が高いことから、ここが当時も宇都宮城と非常に関係の深い場所であったと考えられます。

現在、御本丸公園にあったスケート場が城南3丁目に移転し、冬季には多くの市民の方々に利用されております。当教育委員会と致しましては、スポーツの振興を図るとともに、埋もれた歴史の一端を発掘調査により掘り起こし、宇都宮の歴史に新たな1ページが書き加えられるよう努力を重ねております。本報告はその一環であり、多くの市民の方々にご活用頂ければ幸いです。

末文になりましたが、今回の調査にあたりご指導を頂きました諸先生方並びに、鏡等の保存処理に関しましてご指導、ご協力をくださいました栃木県教育委員会、栃木県埋蔵文化財センター等の諸機関の方々に厚く御礼申し上げます。

平成8年3月31日

宇都宮市教育委員会
教育長 大塚 一之

例 言

1. 本書は宇都宮市城南3丁目他に所在し、市営スケート場建設に伴う城南3丁目遺跡の記録保存のための発掘調査報告書である。
2. 本調査は、宇都宮市教育委員会が主体となり、平成5年1月11日～同年5月31日まで発掘調査を実施した。
3. 調査面積は約5,400㎡である。
4. 遺跡地における測量、写真撮影等は横堀聡、賀来孝代、清水豊の協力を得て、梁木誠、大塚雅之、神野安伸、今平利幸がこれにあたった。
5. 遺構、遺物の整理、実測等は、大森八重子、大野節子、賀来孝代、横堀聡、大澤順子、清水豊、岡田有紀子の協力を得て、今平利幸がこれにあたった。また、遺物の写真撮影は横堀聡、大澤順子、賀来孝代、君島朱美、岡田有紀子がこれにあたった。尚、鉄器及び青銅品の処理に関しては、栃木県埋蔵文化財センターの車塚哲久氏にご指導、ご協力を頂いた。
6. 本書の執筆は今平が担当した。
7. 本遺跡出土の遺物及び図面・写真は、宇都宮市教育委員会で保管している。
8. 発掘調査の関係者は次のとおりである。

〔指導助言〕

宇都宮大学教授	石部正志
宇都宮市文化財保護審議委員会委員	瑞 静夫
同	大金宣亮
同	橋本澄朗

〔事務局〕

〈発掘調査時〉

〈報告書作成時〉

	〈発掘調査時〉		〈報告書作成時〉		
教育長	藤田昌平	博物館建設推進班長	渡辺 卓	教育長	大塚一之
教育次長	近能忠良	博物館建設推進班	白井義雄	教育次長	青柳弘之
文化課長	安達光政	同	片山 繁	文化課長	横堀杉生
文化振興係長	北条和久	同	阿部邦男	文化振興係長	桜井敬朗
文化振興係	湯沢孝夫	同	青木 徹	文化振興係	臼井成志
同	臼井成志			同	高橋良子
同	高橋良子			同	小野敬子
文化財保護係長	定岡明義			文化財保護係長	手塚英男
文化財保護係	手塚英男			文化財保護係	梁木 誠
同	梁木 誠			同	小松俊雄
同	小松俊雄			同	大塚雅之
同	大塚雅之			同	富川 努
同	神野安伸			同	神野安伸
同	今平利幸			同	今平利幸
				国民文化祭推進班長	湯沢孝夫
				国民文化祭推進班	関口 淳



〔調査補助員〕

阿久津フミ、入江キイ、入江タカ子、入江つや子、入江通子、大塚清、小松寅雄、宇梶キヨ、黒川テル子、熊田胖、五味潤志郎、高橋邦雄、野沢清、増潤フミ、箕輪悦子、室井キン、吉沢良助

9. 発掘調査及び報告書作成に関しては、次の諸機関、諸氏の御協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。(敬称略)

栃木県教育委員会文化課、栃木県埋蔵文化財センター、宇都宮市保健体育課、秋元陽光、阿部知己、植木茂雄、大門和則、菊地文雄、車崎正彦、後藤信祐、小林三郎、小森哲也、小森紀男、近藤喬一、斉藤光利、篠原祐一、田熊清彦、田代隆、塚原孝一、中村亨史、中山晋、西川寿勝、橋本博文、藤田典夫、安永真一、山越茂

凡 例

1. 挿図の縮尺は、遺構1/60、カマド1/30、遺物1/3 で示した。また、遺物実測図番号と図版の遺物番号とは一致する。
2. 断面図基準線は標高であり、平面図の方位は磁北を示す。
3. 挿図中の  は炉、 は粘土を示す。
4. 文中および図版中の略号は、SIは住居跡、SBは掘立柱建物跡、STは竪穴建物跡、SKは土坑、SDは溝を意味する。
5. 遺構実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。
ロームブロック…ロームB 今市バミス…IP 七本桜バミス…SP 鹿沼バミス…KP
6. 土器観察表内の(H)は土師器を示し、(S)は須恵器を示す。

目 次

序・例言・凡例

I 調査の経過と方法	
1 調査の経過	1
2 調査の方法	1
II 位置と環境	
1 地理的環境	6
2 歴史的環境	6
III 調査結果	
1 古墳時代	
① 1号墳	10
② 2号墳	17
2 平安時代	
① 竪穴住居跡	18
② 掘立柱建物跡	34
3 中・近世	
① 竪穴建物跡	36
② 掘立柱建物跡	39
③ 土坑	47
④ 堀・溝	51
4 鉄製品	57
5 遺構外遺物	58
IV まとめ	
1 古墳時代	60
① 築造時期について	60
② 埋葬施設について	63
③ 埋葬頭位及び副葬品の関係について	63
2 平安時代	64
3 中世	65

挿 図 目 次

第1図 地形と調査地区	2	第9図 2号主体部出土銅鏡実測図	15
第2図 遺構配置図	3・4	第10図 2号主体部出土鹿角装刀子実測図	16
第3図 周辺遺跡分布図	8	第11図 2号主体部出土土直刀実測図	16
第4図 1号墳出土遺物実測図	10	第12図 2号墳平・断面図	17
第5図 1号墳平・断面図	11	第13図 2号墳出土遺物実測図	17
第6図 1号主体部平・断面図	12	第14図 SI01平・断面図	19
第7図 1号主体部出土遺物実測図	13	第15図 SI01カマド平・断面図	20
第8図 2号主体部平・断面図	14	第16図 SI01出土遺物実測図(1)	21

第17図	SI01出土遺物実測図(2)	22	第45図	SB09平・断面図	40
第18図	SI06平・断面図	22	第46図	SB08平・断面図	41
第19図	SI06平・カマド断面図	23	第47図	SB10平・断面図	42
第20図	SI06出土遺物実測図	24	第48図	SB11平・断面図	42
第21図	SI07平・断面図	25	第49図	SB12平・断面図	43
第22図	SI07カマド平・断面図	25	第50図	SB13平・断面図	44
第23図	SI07出土遺物実測図	26	第51図	SB14平・断面図	44
第24図	SI08平・断面図	27	第52図	SB16平・断面図	45
第25図	SI08カマド平・断面図	28	第53図	SB17平・断面図	46
第26図	SI08出土遺物実測図	29	第54図	SB18平・断面図	46
第27図	SI09平・断面図	30	第55図	SB19平・断面図	47
第28図	SI09北カマド平・断面図	30	第56図	SB19出土遺物実測図	47
第29図	SI09東カマド平・断面図	31	第57図	SB20平・断面図	47
第30図	SI09出土遺物実測図	31	第58図	土坑平・断面図(1)	48
第31図	SI10平・断面図	32	第59図	土坑平・断面図(2)	49
第32図	SI10カマド平・断面図	33	第60図	土坑出土遺物実測図	51
第33図	SI10出土遺物実測図	34	第61図	堀・溝平面図(1)	52
第34図	SB05平・断面図	35	第62図	堀・溝平面図(2)	53・54
第35図	SB06平・断面図	35	第63図	堀・溝断面図	55
第36図	ST02平・断面図	36	第64図	1号堀出土遺物実測図	56
第37図	ST03平・断面図	36	第65図	2号堀出土遺物実測図	56
第38図	ST04平・断面図	37	第66図	鉄製品実測図	58
第39図	ST04出土遺物実測図	37	第67図	遺構外出土遺物実測図	59
第40図	ST05平・断面図	38	第68図	埋葬時復元想定図	60
第41図	ST05出土遺物実測図	38	第69図	県内の埋葬頭位	60
第42図	SB02平・断面図	39	第70図	鏡出土位置関係比較図	61
第43図	SB03平・断面図	39	第71図	中世主要遺跡分布図	67
第44図	SB07平・断面図	40			

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧表	9	第11表	SI10遺物観察表	33
第2表	1号墳遺物観察表	13	第12表	ST04遺物観察表	38
第3表	2号墳遺物観察表	18	第13表	ST05遺物観察表	38
第4表	SI01遺物観察表(1)	20	第14表	土坑一覧表	50
第5表	SI01遺物観察表(2)	21	第15表	土坑遺物観察表	51
第6表	SI06遺物観察表	23	第16表	1号堀遺物観察表	57
第7表	SI07遺物観察表	26	第17表	2号堀遺物観察表	57
第8表	SI08遺物観察表(1)	28	第18表	遺構外遺物観察表	58
第9表	SI08遺物観察表(2)	29	第19表	県内堅穴系主体部古墳一覧	62
第10表	SI09遺物観察表	32	第20表	器種構成表	64

写真図版

- PL 1 ①城南3丁目遺跡全景(上空より)
- PL 2 ①1号墳全景(南東より)
②1号墳調査風景
③1号墳塙出土状況(西から)
- PL 3 ①周溝甕出土状況(西から)
②1号墳1号主体部発掘状況(南から)
③1号墳1号主体部(北から)
④1号墳1号主体部セクション(北から)
- PL 4 ①1号墳2号主体部セクション(南から)
②1号墳2号主体部遺物出土状況(西から)
③2号主体部鏡・鹿角装刀子出土状況(東から)
- PL 5 ①SI01北東コーナー甕出土状況(東から)
②SI01カマド遺物出土状況(南から)
③SI06全景(南から)
④SI06遺物出土状況(南から)
- PL 6 ①SI07カマド(南から)
②SI08全景(南から)
③SI08セクション(西から)
④SI08遺物出土状況(南から)
- PL 7 ①SI10全景(西から)
②SI10遺物出土状況(西から)
③SI10カマド(南から)
④SI10カマド遺物出土状況(南から)
- PL 8 ①ST04全景(南から)
②ST05全景(南から)
③SK11発掘状況(南から)
④SK25セクション(西から)
- ④周溝南側環出土状況(南から)
⑤周溝南側遺物出土状況
- ⑤1号墳1号主体部遺物出土状況(西から)
⑥1号墳2号主体部全景(1)(南から)
⑦1号墳2号主体部全景(2)(南から)
- ④2号主体部直刀出土状況(東から)
⑤2号墳全景(南から)
⑥SI01発掘全景(南から)
⑦SI01遺物出土状況(東から)
- ⑤SI06カマド遺物出土状況(1)(南から)
⑥SI06カマド遺物出土状況(2)(東から)
⑦SI07全景(南から)
⑧SI07遺物出土状況(南から)
- ⑤SI08カマド(南から)
⑥SI09全景(南から)
⑦SI09遺物出土状況(北から)
⑧SI09カマド(南から)
- ⑤SB05全景(南から)
⑥SB06全景(南から)
⑦ST02全景(南から)
⑧ST03全景(東から)
- ⑤SK56セクション(東から)
⑥SK57セクション(東から)
⑦SK59・58セクション(東から)
⑧SK64発掘状況(南から)

- | | | |
|--------|--|---|
| P L 9 | ①SK64セクション (南から)
②SK70・69 (南から)
③SK73完掘状況 (東から)
④SK78完掘状況 (西から) | ⑤SK90～93完掘状況 (南から)
⑥1号堀完掘状況 (東から)
⑦1号堀・1号溝 (東から)
⑧1号堀・1号溝セクション (東から) |
| P L 10 | ①1号・2号堀交差点部調査風景
②1号・2号堀交差点部完掘状況
(南東から)
③2号堀セクション (南から)
④1号・2号堀交差点部 (南から) | ⑤1号・2号堀交差点部遺物出土状況
(北西から)
⑥1号・2号堀C-7ライン杭 (東から)
⑦1号・2号堀C-8ライン杭手前 (東から)
⑧3号溝 (東から) |
| P L 11 | ①1号墳1号主体部出土遺物 (第4図) | ②2号墳出土遺物 (第13図) |
| P L 12 | ①1号墳1号主体部出土遺物 (第7図)
②1号墳2号主体部出土鹿角装刀子
(第10図) | ③直刀 (第11図)
④1号墳2号主体部出土銅鏡 (第9図) |
| P L 13 | ①SI01出土遺物(1) (第16図) | |
| P L 14 | ①SI01出土遺物(2) (第16・17図) | ②SI06出土遺物(1) (第20図) |
| P L 15 | ①SI06出土遺物(2) (第20図) | |
| P L 16 | ①SI07出土遺物 (第23図) | ②SI08出土遺物(1) (第26図) |
| P L 17 | ①SI08出土遺物(2) (第26図) | |
| P L 18 | ①SI09出土遺物 (第30図) | ②SI10出土遺物 (第33図) |
| P L 19 | ①ST04出土遺物 (第39図)
②ST05出土遺物 (第41図) | ③SB19出土遺物 (第56図)
④土坑出土遺物 (第60図) |
| P L 20 | ①1号堀出土遺物 (第64図) | ②2号堀出土遺物 (第65図) |
| P L 21 | ①鉄製品 (第66図) | ②遺構外出土遺物(1) (第67図) |
| P L 22 | ①遺構外出土遺物(2) (第67図) | |



現場風景

I. 調査の経過と方法

1 調査の経過

市内御本丸公園内に所在する市営スケート場の移転に先立ち、平成4年6月24日～26日の2日間において遺跡の確認調査を実施した。調査は幅2mのトレンチを10m間隔で6本入れて遺構の確認を行った。その結果、竪穴住居跡と考えられる遺構が数基確認されたため、本調査の必要があることを担当課である保健体育課に報告した。

文化課と保健体育課との協議の結果、スケート場建設の時期を遅らせることが出来ないとのことから、年度内に調査を終了することとし、調査日程を調整した。尚、調査範囲については、地下遺構を傷めると考えられる建物建設部分の南北約60m、東西約90mの範囲とし、駐車場部分は地下遺構を傷めないように保存することとした。

本調査は平成5年1月11日から開始し、重機により全面的に表土剥ぎを行った。その結果、予想よりもかなり多数の遺構が存在することが確認できた。調査は予定通り3月31日までの計画に従って進めたが、その遺構の多さと、終盤になって古墳の主体部が確認されたことから、次年度に若干食い込むことになった。最後は、古墳の主体部から鏡が出土したことから時間が掛かり、5月31日をもって終了した。

2 調査の方法

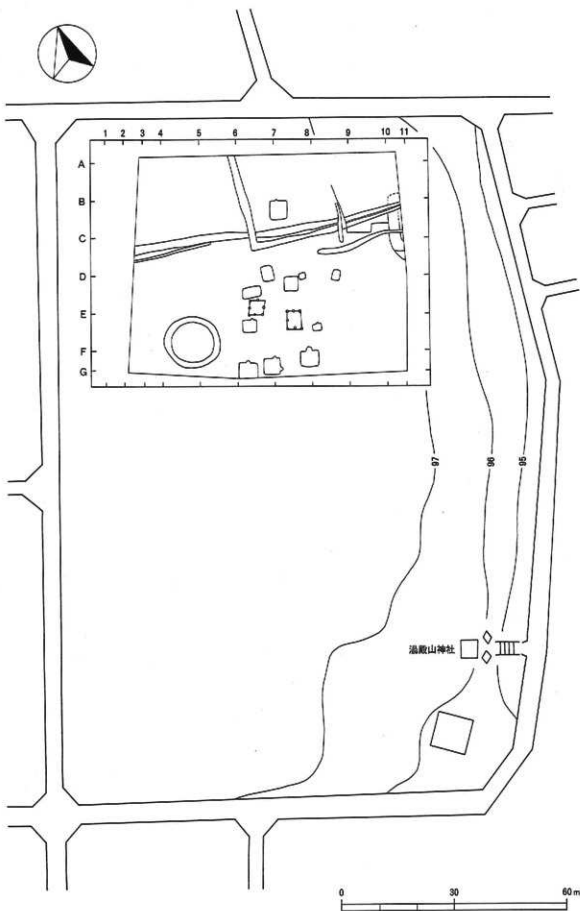
まず始めに、トレンチ調査により遺構の確認調査を行った。この結果、数軒の竪穴住居跡が確認できたため、その範囲を重機により面的に広げた。第1図はその地形と調査区を示した図である。

費用的な面から国家座標に乗せることが出来なかったため、敷地と道路との境界杭を基準に基本的には10m間隔で基準杭を設定した。また、標高は水準点までの距離が遠いことから、付近の道路上に設定された標高点(98.1m)を使用した。

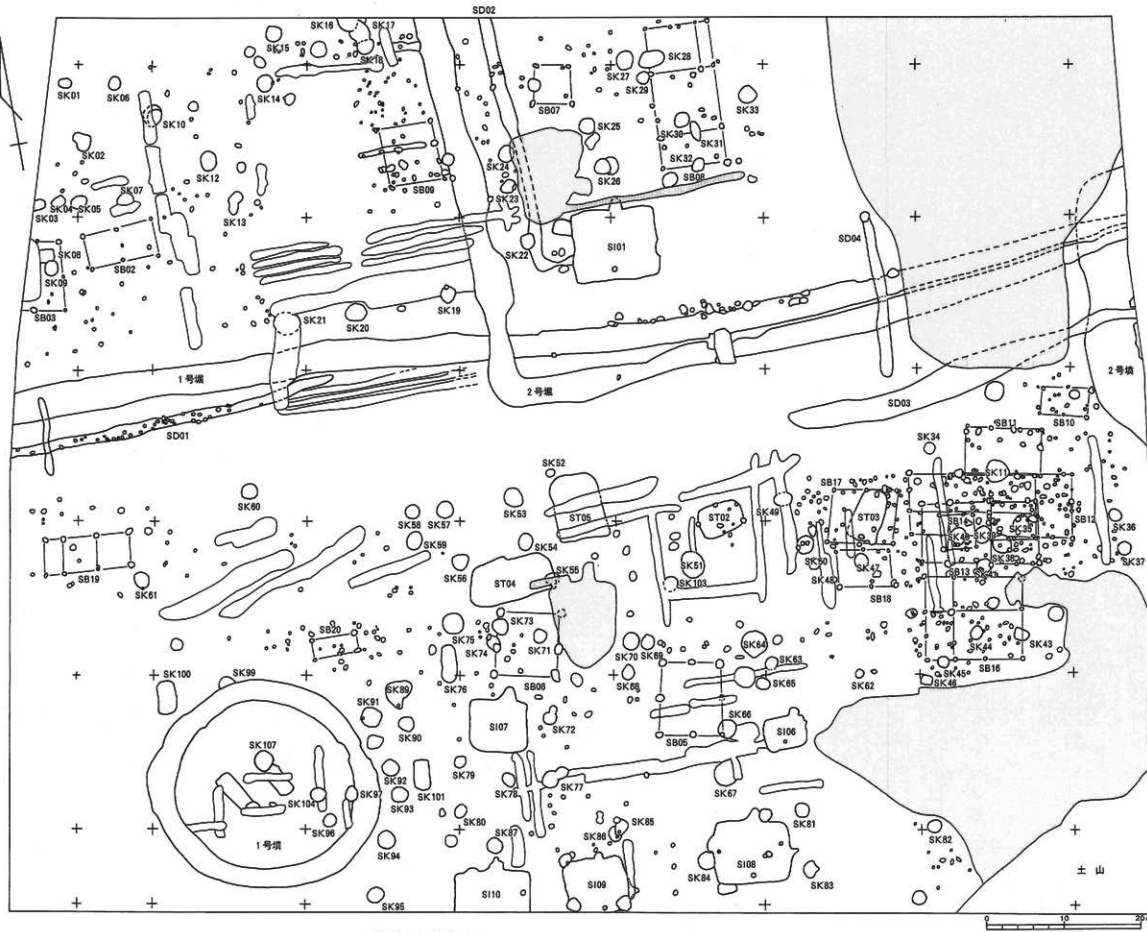
基本層序は、Ⅰ グランド整地層(40cm)→Ⅱ 褐色土→Ⅲ ローム地山の順で、遺構の確認は地表下40cmのグランド整地層除去後に行った。

(発掘日誌抄)

- 1月11日 プレハブを設置。重機による表土剥ぎ開始。
- 14日 表土剥ぎ終了。
- 15～29日 ジョレンがけによる遺構確認。面積が広いため時間を要する。
- 2月2日 堀部分を再度ジョレンがけする。青磁片が出土。
- 4日 基準杭打設。
- 12日 土坑、芋穴、柱穴の掘り下げ。土坑はほぼ一層で締まっている。
- 16日 1号堀及びSD01をA～C区に分け、A区より掘り下げを開始する。
- 18日 堀C区の掘り下げ。土器、河原石が黒色土中から多く出土。
- 19日 堀C区の掘り下げ完了。SX01を設定し掘り下げを行ったところ、ガラス欠けが出土。現代の攪乱があちこちにあることが判明した。
- 24日 2号堀掘り下げ。



第1図 地形と調査区



第2図 遺構配置図

…カクラン

- 25日 SB02～SB04 のセクション図作成。
- 26日 1号堀と2号堀の交差部の掘り下げ。1号堀→2号堀の順番が考えられる。
- 3月1日 SI01の掘り下げ。
- 8日 SI01遺物写真及び遺物平面図作成。SI02、SI03の掘り下げ。
- 9日 SI01遺物平面図作成後取り上げ。SI03の掘り下げ。ピット群掘り下げ。
- 11日 1号堀・2号堀セクション図作成。2号墳掘り下げ。堀が2号墳の周溝を切っている。
- 12日 SI01カマド切開。2号墳掘り下げ。
- 15日 SI04掘り下げ。2号墳掘り下げ。
- 17日 2号墳セクション写真、図面作成。SI06、SI07の掘り下げ。
- 17日 SI04、SI05セクション写真撮影。
- 19日 SI01カマド写真、遺物出土状態図作成。SI06、SI07写真撮影。
- 20日 SI01平面図作成。SI08の掘り下げ。
- 23日 SI08～SI10の掘り下げ。SI04、SI05の遺物平面図作成。
- 24日 1号墳掘り下げ。環、壺が出土。
- 25日 1号墳掘り下げ。SI02、SI03遺構平面図作成。
- 29日 SI08～SI10遺物平面図作成。
- 30日 1号墳、2号墳ベルト除去。SI10遺物取り上げ。1号墳平面図作成。
- 31日 1号墳写真撮影。エレベーション作成。
- 4月2日 1号堀セクション図作成。SI09、SI10カマド切開。
- 5日 1号堀ベルト除去。1号墳平面図作成。
- 7日 2号堀、SI03写真撮影。
- 8日 1号墳1号主体部攪乱部分掘り下げ。SI08、SI09カマド切開。航空写真撮影。
- 11日 2号墳遺構平面図作成。
- 12日 2号墳遺構平面図作成。1号主体部掘り下げ。
- 13日 ピット群遺構平面図作成。SI10カマド写真撮影。
- 15日 SI09、SI10カマド平面図作成。
- 23日 1号主体部ベルト除去。
- 26～28日 2号主体部掘り下げ。
- 5月6日 2号主体部掘り下げ。
- 11日 青銅鏡の出土。写真撮影。
- 12日 直刀、刀子が出土。写真撮影。
- 13日 遺物出土状態写真の撮影。
- 17～19日 遺物出土状態図作成。
- 20日 遺物取り上げ。
- 21日 2号主体部遺構平面図作成。
- 25～27日 粘土部分を外し、主体部の掘り方を確認する。
- 28日 掘り方の遺構平面図作成。
- 31日 発掘調査用具の片付け後調査終了。

II. 位置と環境

1 地理的環境

城南3丁目遺跡は宇都宮中心街から南方約5km、JR宇都宮線雀宮駅から北方約2kmに位置する。本遺跡の周辺の地形を概観すると、鬼怒川の支流である田川と思川の支流である姿川が南流し、両河川に挟まれた地域に宝木台地と沖積低地が交互に形成されている。本遺跡は、この宝木台地の東縁辺部に位置する。標高約98mに立地し沖積地との比高は約5mである。東方500mのところには田川が南流する。昭和30年代までは、数軒の農家があるだけで見渡すかぎりが農耕地であったが、現在はこの台地縁辺までが市街化区域であるため、昭和41年から昭和49年にかけての土地区画整理事業に伴い多数の宅地が立ち並び、当時の面影を残す部分は少なくなっている。ただし、沖積低地部は市街化調整区域であるため水田地帯が広がり、当時の景観をいまだ残す。

本遺跡地内は、既にこの区画整理事業時に改変を受け、その後もここをランドとして使用するための整地作業が行われている。元々の地形が緩やかな斜面であったところを盛土して平らにしている。尚、調査区東側は第2図で示したように大きく攪乱を受けている所が確認できた。

2 歴史的環境

第3図からもわかるように、田川右岸の宝木台地上には多数の遺跡が存在する。以下、時代ごとに周辺遺跡について概観してみる。

縄文時代

本遺跡周辺においては、雷電山遺跡(6)、旭ヶ丘団地北遺跡(19)、旭ヶ丘団地遺跡(20)、二軒屋遺跡(21)、若松原遺跡(22)、西原北遺跡(23)が存在する。(6)では遺構は確認できなかったが、早期～中期にかけての遺物が出土している。(19)・(20)・(21)・(22)は両方もやや離れているが1つの遺跡に括ることが可能と考えられる。尚、20と21の間には谷が入り込んでいる。以上5遺跡のうち、二軒屋遺跡(21)は下野考古学研究会の手によって発掘調査が行われ、縄文時代中期の袋状土坑等が確認されている。

弥生時代

弥生時代の遺跡としては、縄文時代と同様二軒屋遺跡(21)、若松原遺跡(22)、西原北遺跡(23)が挙げられる。先にも述べたように、(21)・(22)・(23)は一連の遺跡と考えられる。特に二軒屋遺跡(21)は栃木県弥生時代後期の標式遺跡となっている。この宇都宮南部は、この他に天狗原遺跡(24)や東川田遺跡(25)など二軒屋式土器の表採される場所が多く確認されており、二軒屋式文化圏の一中心をなしていたものと考えられる。

古墳時代

前時代の下地を持つ本地域は、古墳時代の遺跡もかなり多い。

本遺跡内においても古墳が確認されたが、この宝木台地東縁辺上には点々と古墳が確認されている。台内手遺跡(5)内に円墳2基、それから500m南にやや大きめの円墳である大山祇神社古墳(9)、そして、これから約1.5kmのところには本遺跡内古墳が所在し、さらに約1.5kmのところには綾女塚古墳(10)という人物埴輪を出土した前方後円墳が存在した。これ以外にも、この台地上には「狐塚」「狸塚」などと呼ばれる小さな塚が点在していたとのことである。

県南の一部を除いた栃木県内において、本地域に所在する笹塚古墳が最初の方後円墳となる。この笹塚の年代は5世紀前半と考えられ、それ以前は、茂原古墳群にみられるような前方後方墳が首長の墓制であっ

た。その意味では、笹塚古墳(100m)の築造を契機に、より畿内と密接な関係を持つようになったと考えられる。これに後続するのが塚山古墳(約98m)を中心とする塚山古墳群⁰⁸である。そして、これと並行する時期に、これより南東方約2kmのところに、画文帯神獸鏡などを出土した雀宮牛塚古墳⁰⁹が存在した。このように、本地域は中期において、県内の他地域を圧倒する勢力を誇示していたものと思われる。

同時代の集落跡は第1表からもわかるようにこの周辺に多数存在する。

奈良・平安時代

分布区内でのこの時代の集落跡は大きく2グループに分けられる。江曾島北遺跡⁰⁶、関道遺跡⁰⁸、おしめ尽遺跡⁰⁹等の台地内部の小河川流域に立地するグループと、田川の右岸台地縁辺部に立地する大房林遺跡¹²、宮の内1丁目遺跡⁰⁴、雀宮東浦遺跡⁰³、牛塚東遺跡⁰⁴等が挙げられる。本遺跡と13・14・15の遺跡は大きく見ると1つの遺跡と見ることもできる。⁰⁵の宮の内A・B遺跡では竪穴住居跡24軒、掘立柱建物跡17棟が確認され、遺物の中には灰軸・緑軸陶器が105点出土した他、石帯も出土している。これに隣接する宮の内1丁目遺跡でも石製の丸鞘や銅製の巡方が出土している。因みに竪穴住居跡は74軒、掘立柱建物跡5棟確認されている。本遺跡の竪穴住居跡もこの集落の一端と考えれば、その範囲は広がり、100軒以上の軒数を数えることになる。これらは数時期に渡るものと考えられるが、その出土遺物等から見てある程度大規模な集落になる可能性は否定できない。尚、これらの遺跡の台地下の沖積低地部に上御田町という地名があるが、岡田孝夫氏は「下野の条里について」の中でこの周辺に条里制遺構があったとの指摘をしている。

中世

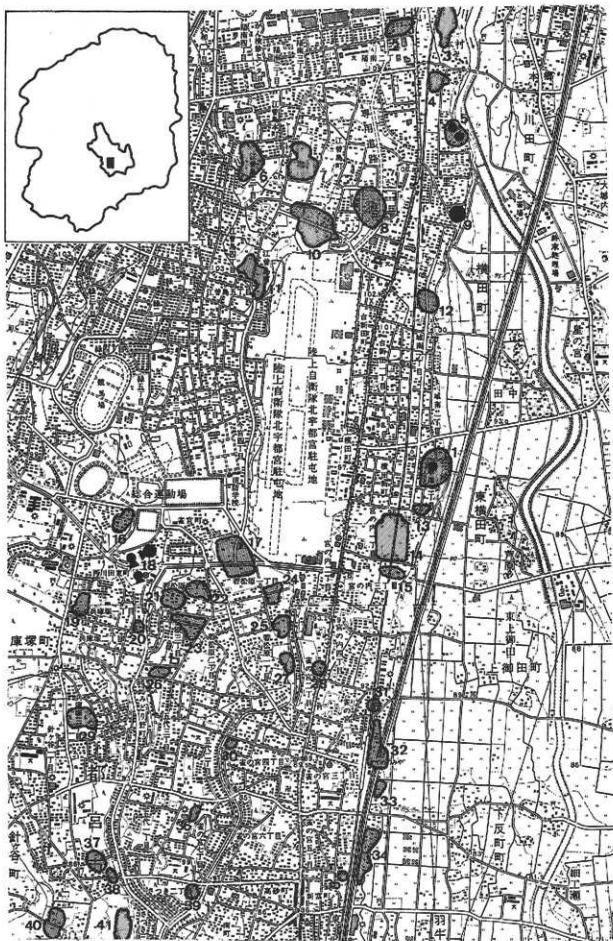
近隣における城館跡は、本遺跡の北西方約2kmの雷電山遺跡⁰⁶が挙げられる。ここは中世の江曾島城とされ、宇都宮氏の家臣江曾島氏の城と伝えられている。これ以外に目立った中世の遺跡は未だ確認されていないが、日光街道がこの周辺を通過していたことから考えると、中・近世の集落がこの近辺に存在した可能性は高い。尚、古老の話では、戦前には本遺跡のある台地の上にはほとんど人家がなく、元々の古い集落は沖積低地部にあったとのことである。現在でもそこには旧家が存在する。

(参考文献)

下野考古学研究会 1981「宇都宮市二軒屋遺跡発掘調査報告」「下野考古学」2

宇都宮市教育委員会 1983「宇都宮の遺跡」

田代己佳ほか 1996「宮の内A遺跡・宮の内B遺跡」栃木県教育委員会、栃木県文化振興事業団



第3図 周辺道跡分布図 (1:25,000)

No.	遺跡名	所在地	種別	時期	備考
1	城南3丁目遺跡	城南3丁目	古墳・集落跡	古墳～中世	本遺跡
2	陽南1丁目遺跡	陽南1-2-691 他	集落跡	奈良～鎌倉	
3	本村上野遺跡	川田町44 他	集落跡・古墳	弥生・古墳	円墳2基
4	西原境遺跡	川田町1351 他	集落跡	縄文・古墳～平安	
5	台内手遺跡	江曾島町1277 他	集落跡・古墳	古墳～平安	円墳2基
6	雷電山遺跡	江曾島3丁目	集落跡・古墳	古墳・中世	
7	並松遺跡	江曾島町1057 他	集落跡	古墳～平安	
8	江曾島北遺跡	江曾島町1324 他	集落跡	古墳～平安	
9	大山祇神社古墳	上横田町707 他	古墳	古墳	円墳(径30m)
10	関道遺跡	江曾島町1152 他	集落跡	古墳～奈良	昭和61年調査
11	おしめ尽遺跡	江曾島町124 他	集落跡	古墳～平安	
12	大房林遺跡	上横田町824-4	集落跡	古墳～平安	
13	城南3丁目南遺跡	城南3丁目	集落跡		
14	宮の内1丁目遺跡	宮の内1丁目	古墳・集落跡	古墳～中世	
15	宮の内A・B遺跡	宮の内・上横田	集落跡	奈良・平安	平成3年度調査
16	塚山北遺跡	兵庫塚町1807-5	集落跡	奈良・平安	
17	北若松原遺跡	北若松原1-1665	集落跡	古墳	平成3年度調査
18	塚山古墳群	兵庫塚町663-1	古墳群	古墳	前方後円墳3基、円墳5基
19	旭ヶ丘団地北遺跡	兵庫塚町309-3	集落跡	縄文	
20	旭ヶ丘団地遺跡	兵庫塚町164-28	集落跡	縄文	
21	二軒屋遺跡	雀宮町1117-5 他	集落跡	縄文～古墳	
22	若松原遺跡	雀宮町1118-1 他	集落跡	縄文～古墳	
23	西原北遺跡	雀宮町1115-2 他	集落跡	縄文～古墳	
24	一向寺別院遺跡	雀宮町1665-3 他	集落跡	古墳	
25	留西遺跡	雀宮町1080-43	集落跡	古墳	
26	若松原南遺跡	雀宮町1109-1 他	集落跡	古墳	
27	留西南遺跡	雀宮町1072-1	集落跡	古墳	
28	十里木古墳	雀宮226-1 他	古墳	古墳	消滅(前方後円墳?)
29	下原遺跡	兵庫塚3丁目49 他	集落跡	奈良・平安	平成4年度調査
30	雀宮4丁目遺跡	雀宮4丁目	集落跡		
31	綾女塚古墳	雀宮125-18 他	古墳	古墳	消滅(前方後円墳)
32	雀宮東浦遺跡	雀宮町329-13 他	散布地	奈良・平安	
33	雀宮駅東遺跡	雀宮町401-2 他	集落跡	奈良・平安	
34	牛塚東遺跡	雀宮町444-2 他	集落跡	奈良	平成2年度調査
35	牛塚古墳	新富町17 他	古墳	古墳	
36	大谷田遺跡	雀宮町986-60	集落跡		
37	榎戸遺跡	針ヶ谷町二子塚410-3 他	集落跡	奈良・平安	
38	二子塚古墳	針ヶ谷町410-19 他	古墳	古墳	
39	天狗原遺跡	さつき1丁目	集落跡	弥生・古墳	平成4年度調査
40	赤岩遺跡	針ヶ谷町371-2 他	集落跡	縄文・古墳	
41	島の前遺跡	針ヶ谷町350 他	集落跡	縄文・古墳・奈良	

第1表 周辺遺跡一覧表

Ⅲ. 調査結果

1 古墳時代

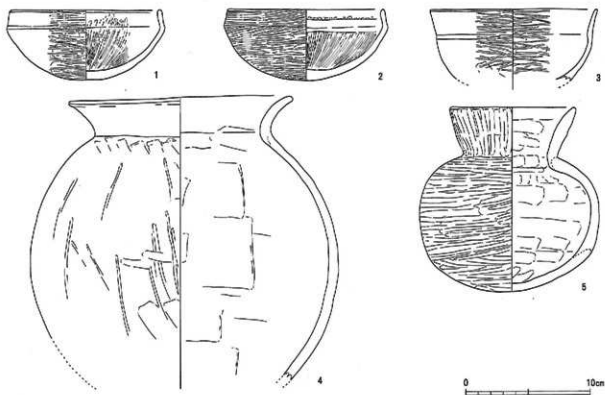
古墳時代の遺構は古墳が2基確認できた。1号墳は調査区南西隅に位置し、周溝と主体部2基を確認をした。2号墳は調査区西隅に位置し、周溝の一部を確認した。

① 1号墳

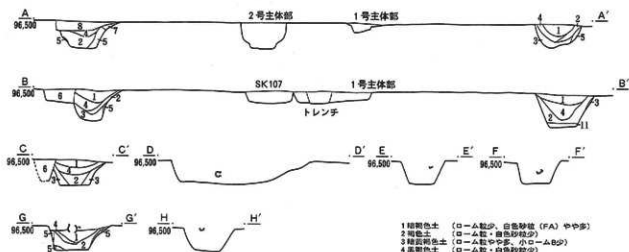
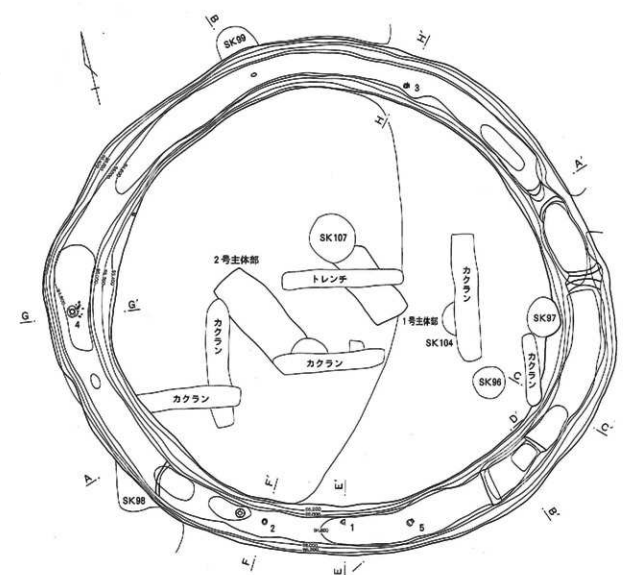
位置 調査区南西隅。墳形と規模 東西12.9m×南北11.7mのやや歪な円墳。墳丘 削平され、現存しないが、元々低墳丘だったと考えられる。周溝 幅1.25m～2m、深さ50～80cmで、断面逆台形を呈する。周溝の底面は一定ではなく、特に東側において凹凸が見られる。埋葬施設 2基確認でき、東側を1号主体部、西側を2号主体部とした。この2つの主体部は墳丘のほぼ中央に並行して位置する。切り合い関係長方形の半穴及び円形の土坑(SK97～SK99、SK104)により切られる。出土土器 土師器甕1、壺1、坏3が出土した。出土位置は周溝南側から壺(5)と坏(1・2)が、東側から甕(4)、北側から坏(3)が出土した。出土レベルは、周溝底から10～20cm(4層)の2・5と50cm(1層)の1・3・4とがある。各土器の詳細については第2表の観察表を参照されたい。

1号主体部

墳丘が削平されていたため、確認面において既に主体部に使用された粘土が露出していた。掘り方の平面規模は、長軸2.2m×短軸0.9mを測る。その内部に第6図スクリーントーン□の範囲で、木棺を固定するように両小口に多量の粘土が確認できた。推定の木棺規模は、長軸1.77m×短軸0.39mである。床面には粘土が敷き詰められ、壁面も部分的であるが粘土が残り、埋土中にも粘土がやや多く見られることから、粘土



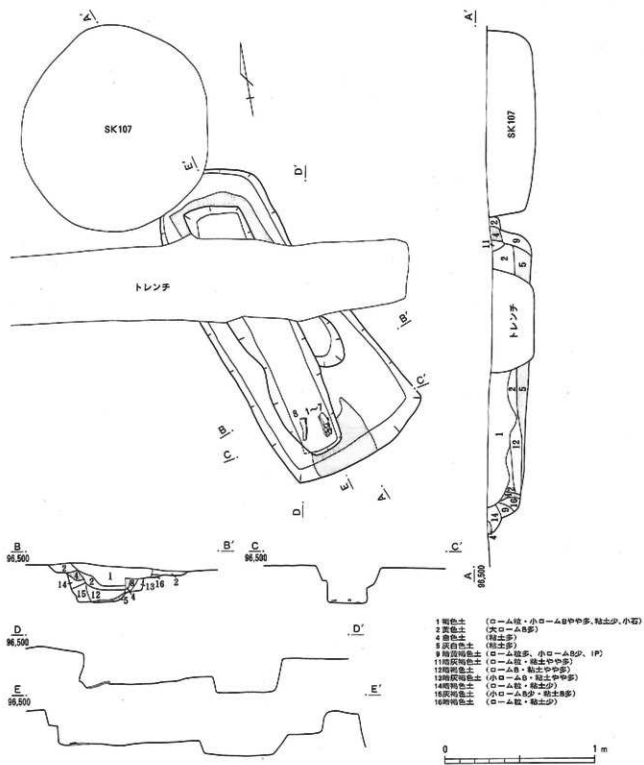
第4図 1号墳出土遺物実測図



- 1 暗褐色土 (ローム粒少、白色砂粒 (FA) やや多)
- 2 暗色土 (ローム粒・黄色砂粒少)
- 3 緑褐色土 (ローム粒やや多、小ローム多)
- 4 黒褐色土 (ローム粒・白色砂粒少)
- 5 黄褐色土 (ローム粒多)
- 6 黄褐色土 (ローム粒・小ローム多、SY少)
- 7 暗褐色土 (ローム粒・黄色砂粒少)
- 8 暗褐色土 (ローム粒・SY少、白色砂粒やや多)
- 11 暗褐色土 (ローム粒やや多、小ローム多)



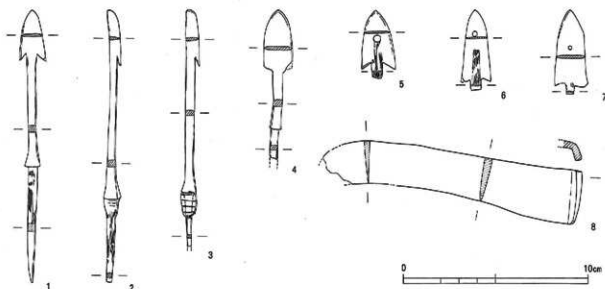
第5図 1号墳平・断面図



第6図 1号主体部平・断面図

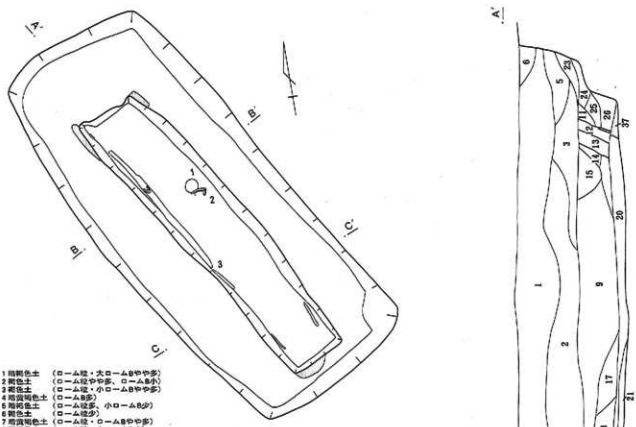
No	器種	寸法 (cm)	器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
1	坏(H)	口 13.0 高 5.6 底 丸底	体部は半球計形を呈し丸底で、口縁部が短く内傾する。	内面は放射状のヘラミガキ後、口縁部ヨコナデ、外置はナデ後横位のヘラミガキ。	暗赤褐色	石英、赤色コリ7粒	良好	1層中	1/2残
2	坏(H)	口 12.5 高 5.7 底 丸底	体部は半球計形を呈し丸底で、口縁部が短く内傾する。	内面は放射状のヘラミガキ後、口縁部ヨコナデ、外置はナデ後横位のヘラミガキ。	赤褐色	石英、赤色コリ7粒	良好	4層中	完形
3	坏(H)	口 13.5	口縁内面に稜を有し口縁部が外傾する。	内外面とも口縁部ヨコナデ後全面を横位のヘラミガキ。	褐色	砂粒、赤色コリ7粒	良好	1層中	1/2残 底部焼成後穿孔
4	壺(H)	口 18.0	口縁部は「く」字状で、胴部は球形。	口縁部ヨコナデ、胴部内面横位のヘラミガキ、外面ナデ後半ヘラミガキ後粗いヘラミガキ。	褐色	砂粒、小石	良好	1層中	2/3残
5	壺(H)	口 10.0 高 14.8 底 丸底	胴部はやや横長の球形で、口縁部は直線的に外傾する。	口縁部ヨコナデ後、外面縦位のヘラミガキ、胴部外面横位のヘラミガキ、内面横位のヘラミガキ。	赤褐色	砂粒、石英	良好	4層中	完形

第2表 1号墳遺物観察表



第7図 1号主体部出土遺物実測図

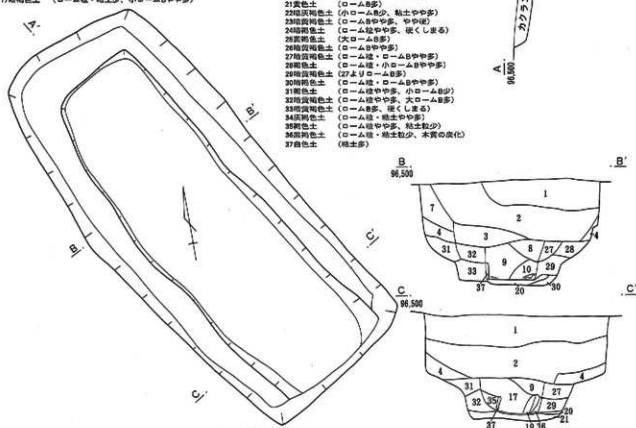
柳と考えられる。尚、確認面から床面までの深さは約20cmである。主体部真中北寄りに幅50cmの攪乱が入っていることから、すべての副葬品を確認できたわけではないが、主体部南壁寄りに鉄鏃7本、鎌1丁が出土した。鉄鏃は長頸鏃が4本(1~4)、短茎鏃が3本(5~7)である。1は鏃身部が長三角形で鏃身関部に逆刺があり、茎部に木質が残る。全長14.6cm、鏃身長2.7cm、厚さ0.15cm。2は鏃身部が片刃形で茎部に木質が残る。全長14.5cm、鏃身長3.0cm、厚さ0.20cm。3は鏃身部が片刃形で茎部に木質が残り、一部欠損する。現存長12.6cm、鏃身長3.0cm、厚さ0.20cm。4は鏃身部が長三角形で鏃身関部が1角関で、茎部に木質が残り、一部欠損する。現存長12.6cm、鏃身長3.0cm、厚さ0.20cm。5は鏃身部が長三角形、鏃身関部に逆刺があり、中央に1孔穿つ。現存長3.6cm、鏃身長3.1cm、厚さ0.15cm。6は鏃身部が長三角形で鏃身関部逆刺があり、刃部先端に近い位置に1孔穿つ。現存長4.25cm、鏃身長3.7cm、厚さ0.10cm。7は鏃身部が長三角形で鏃身関部に逆刺があり、中央に1孔穿つ。現存長4.25cm、鏃身長3.7cm、厚さ0.10cm。8は曲刃鏃で、現存長14.1cm、刃部幅2.3cm、最大厚0.4cm、着柄部幅2.9cmである。



遺物出土状況図

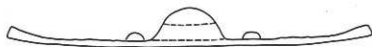
- 1 暗褐色土 (ローム粒・大ローム中中多)
- 2 黄褐色土 (ローム粒中多、ローム粒少)
- 3 黄褐色土 (ローム粒・小ローム中中多)
- 4 暗褐色土 (ローム粒多)
- 5 暗褐色土 (ローム粒多、小ローム粒少)
- 6 暗褐色土 (ローム粒少)
- 7 暗褐色土 (ローム粒・ローム中中多)
- 8 暗褐色土 (ローム粒・小ローム粒少)
- 9 暗褐色土 (ローム粒・粘土粒少)
- 10 暗褐色土 (ローム粒中多、ローム粒・粘土少)
- 11 暗褐色土 (ローム粒・ローム中中多)
- 12 暗褐色土 (ローム粒中多)
- 13 暗褐色土 (ローム粒多、粘土粒)
- 14 暗褐色土 (ローム粒中多、粘土少)
- 15 暗褐色土 (ローム粒・大ローム中中多)
- 16 暗褐色土 (ローム粒少)
- 17 暗褐色土 (ローム粒・粘土少、小ローム中中多)

- 18 暗褐色土 (17より小ローム・粘土少)
- 19 暗褐色土 (ローム粒少、粘土中中多)
- 20 暗褐色土 (ローム粒・粘土中中多)
- 21 黄褐色土 (ローム粒多)
- 22 暗褐色土 (小ローム粒少、粘土中中多)
- 23 暗褐色土 (ローム中中多、粘土粒)
- 24 暗褐色土 (ローム粒中多、硬くしまる)
- 25 暗褐色土 (大ローム多)
- 26 暗褐色土 (ローム中中多)
- 27 暗褐色土 (ローム粒・ローム中中多)
- 28 暗褐色土 (ローム粒・小ローム中中多)
- 29 暗褐色土 (27よりローム多)
- 30 暗褐色土 (ローム粒・ローム中中多)
- 31 暗褐色土 (ローム粒中多、小ローム粒少)
- 32 暗褐色土 (ローム粒中多、大ローム多)
- 33 暗褐色土 (ローム多、硬くしまる)
- 34 暗褐色土 (ローム粒・粘土中中多)
- 35 暗褐色土 (ローム粒中多、粘土粒少)
- 36 暗褐色土 (ローム粒・粘土粒少、木屑の炭化)
- 37 黄褐色土 (粘土多)

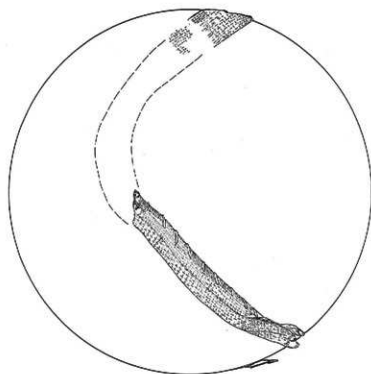


掘り方状態図

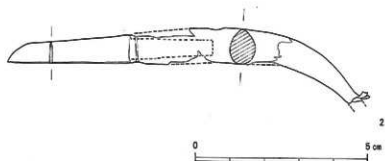
第8図 2号主体部平・断面図



1



第9图 2号主体部出土铜镜实测图



第10図 2号主体部出土鹿角装刀子実測図

2号主体部

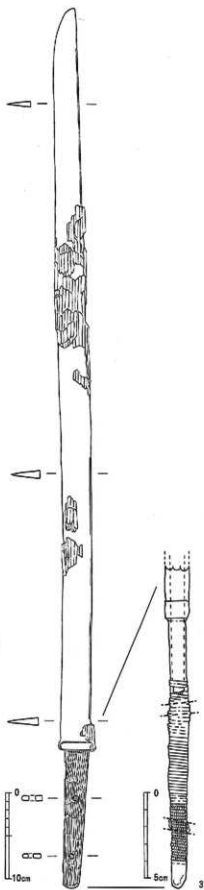
1号主体部と同様の確認状況であったが、掘り方の平面規模は、長軸2.9m×短軸1.26mを測り、1号主体部を上回る。その内部に第8図スクリーントーン□の範囲で、木棺を固定するように両小口に粘土が確認できた。推定の木棺規模は、長軸2.15m×短軸0.49mである。床面は粘土がやや多い層(20層)である。また全周はしないが壁面に粘土が見られ、1と同様に粘土礫と考えられる。尚、確認面から床面までの深さは約70cmと1号主体部より深い。また、第8図平面図の下図は掘り方を示すが、地山を2段に掘り窪めている。

副葬品は、中央やや北よりの東壁際から変形鏡1面と鹿角装刀子1口、西壁際から直刀1口が出土した。

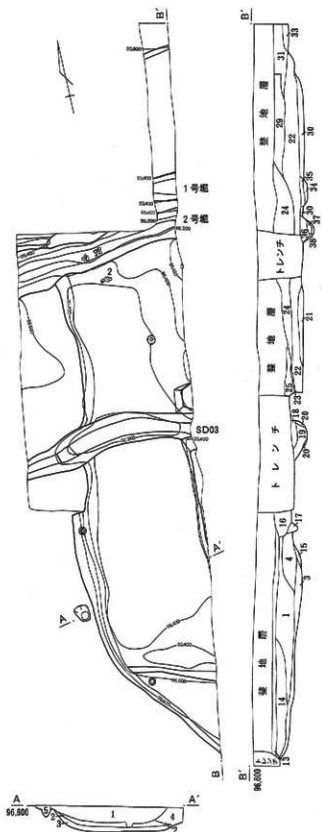
1の鏡(第9図)は棺の東壁際に鏡面を上にして立てかけられるような状態で出土した。面径は9.7cm、鈕径が1.9cmを測る。外区は素縁で鋸齒文-複波文(3条)-櫛齒文-鋸齒文の順で、内区は5つの乳がほぼ均等に配され、その間に、緑青で大部分が覆われているため文様のはっきりしないが、獸形が簡略化された文様が描かれている。鈕には細かい繊維質の紐が残り、鏡面には、布を二つ折りにし糸でかがったような状況の繊維が観察できる。また、顕微鏡観察の結果鏡全体に細かい繊維状のものが観察できることから、布状のものに包まれていたと思われる。

2の鹿角装刀子(第10図)は鏡の上面から出土した。現存長17.0cm、刃長5.7cm、刃部最大幅1.2cm、柄長11.3cm、柄部最大幅1.5cmである。柄の表面には緑青が観察できる。

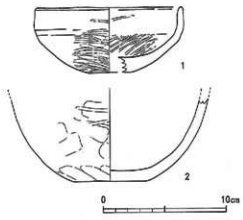
3の直刀(第11図)は西壁際に置かれた状態で出土した。全長101.2cm、刀身長85.4cm、身元幅3.6cm、背幅0.9cm、茎長15.8cm、茎中央幅2.2cm、茎尻幅1.9cm、目釘孔は2カ所、孔径0.6cmを測る。身部は平造りで、切先にふくらみがある。鞘及び柄部分の木質部が残る。また、柄部には柄木を巻き締めた緒が一部残る。



第11図 2号主体部出土直刀実測図



第12図 2号墳平・断面図



第13図 2号墳出土遺物実測図

- 1 緑褐色土 (ロ-A 粘中多、黄赤粒数)
- 2 褐色土 (ロ-A 粘中多、P)
- 3 緑黄粘厚土 (ロ-A 粘多、小ロ-A 粘少)
- 4 褐色土 (ロ-A 粘多、P)
- 5 緑黄褐色土 (ロ-A 粘中多、ロ-A 粘)
- 12 褐色土 (ロ-A 粘少、C、P)
- 14 黄褐色土 (ロ-A 粘少、赤色砂粒)
- 15 緑黄褐色土 (ロ-A 粘・大ロ-A 粘少)
- 16 褐色土 (ロ-A 粘・小ロ-A 粘少)
- 17 緑黄褐色土 (ロ-A 粘・小ロ-A 粘中多)
- 18 褐色土 (ロ-A 粘少)
- 19 褐色土 (ロ-A 粘・小ロ-A 粘少)
- 20 褐色土 (ロ-A 粘少、小ロ-A 粘、ロ-A 粘)
- 21 黄褐色土 (ロ-A 粘少)
- 22 褐色土 (ロ-A 粘少、C)
- 23 褐色土 (ロ-A 粘少)
- 24 褐色土 (25とほぼ同じであるがロ-A 粘中多)
- 25 褐色土 (ロ-A 粘少)
- 26 緑黄褐色土 (ロ-A 粘中多、ロ-A 粘多)
- 28 黄褐色土 (大ロ-A 粘多)
- 31 褐色土 (砂粒数)
- 32 緑黄褐色土 (ロ-A 粘多、ロ-A 粘少)
- 34 褐色土 (ロ-A 粘・ロ-A 粘中多)
- 35 褐色土 (ロ-A 粘中多、小ロ-A 粘少)
- 36 褐色土 (ロ-A 粘中多、小ロ-A 粘少)
- 37 褐色土 (ロ-A 粘少、ロ-A 粘中多)
- 38 黄褐色土 (ロ-A 粘多)

No	器種	寸法 (cm)	器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
1	坏(出)	口 (11.8) 高 5.2 底 3.4	平底で、口縁部は直立する。	口縁部ヨコナデ後、一部ヘラミガキ、体部外面横位のヘラミガキ、内面放射状のヘラミガキ。	橙 褐色	砂粒	良好	埋土中	1/4 残
2	要(出)	底 6.2	平底。	外面ヘラケズリ、内面は殆ど割離している。	褐色	砂粒がやや多い	良好	埋土中	1/12 残

第3表 2号墳遺物観察表

②2号墳

位置 調査区東隅。墳形と規模 墳形は調査区に一部分かっただけで詳細はわからないが、墳丘の一部分及び周溝が直線的であることから方墳の可能性がある。規模は南北約10mと推定される。墳丘 削平され現存しないが、2～3m程の盛土があったことが聞き取り調査からわかった。周溝 幅3～5mで、深さは確認面から50～60cmと広く浅い。周溝の底面はほぼ平らである。切り合い関係 1号、2号堀及びSD03により切られる。また、北側部分には大きな攪乱が入る。出土土器 土師器壺1、坏1が出土した。出土位置は周溝埋土中より出土した。各土器の詳細については第3表の観察表を参照されたい。

2 平安時代

調査区内から6軒の竪穴住居跡と2棟の掘立柱建物跡が確認できた。配置は、調査区のほぼ中央にかたまるが、1軒のみ北に位置し、他の5軒と2棟の掘立柱建物跡は南側に集中する。

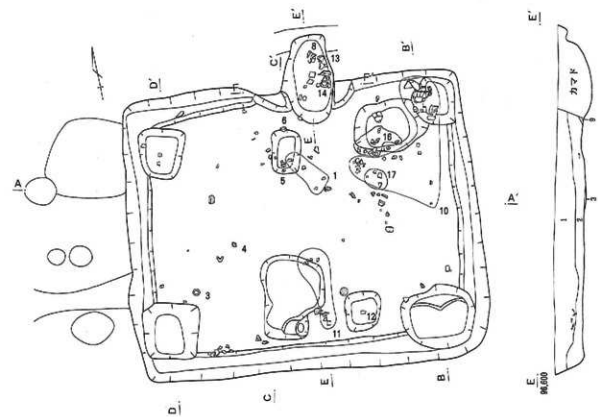
①竪穴住居跡

SI01

位置 B-7杭付近。平面形 東西方向に長い長方形。規模 東西5.7m×南北4.6m。主軸方向 N-4°-E
床面 ローム地山の床面。四隅に床下土坑を持つ。壁 壁高は約50cmでやや傾斜をもって立ち上がる。柱穴 無。貯蔵穴 北東隅に1カ所。カマド 北壁中央に設けられる。全長1.4m、炊口幅0.6m。ソデ部は粘土を主体とする。天井部はすでに崩落しており、埋土中に妻の破片を含む。煙道部は溝状の遺構により切られる。緩やかな火床面から煙道部で急に立ち上がる。炊口部分から煙道部にかけて多量の焼土層（5層）が確認できた。覆土の状況 自然埋没。遺物 実測可能な遺物は、土師器坏4点、甕4点、須恵器坏2点、壺1点（11と12は同一個体）の計11点である。遺物の出土状態は、6と12が埋土中で8がカマド内の他は床直である。全体的に住居跡の北東寄りに遺物が集中する。

SI06

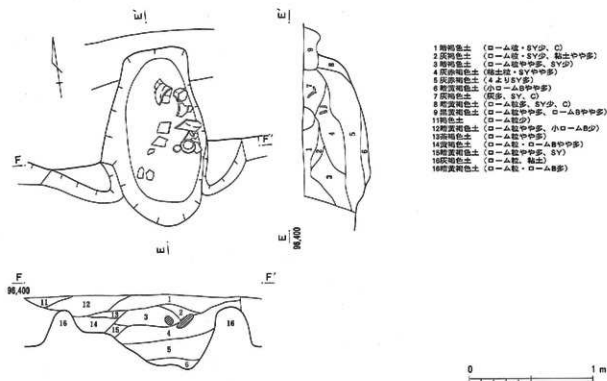
位置 D-9杭付近。平面形 東西方向にやや長い方形。規模 東西2.55m×南北2.15m。主軸方向 N-2°-E
床面 貼床で、固くしまる。壁 壁高は30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。柱穴 中央に1本確認できた。貯蔵穴 北東隅に1カ所。カマド 北東隅寄りに設けられる。全長1.2m、炊口幅0.6m。ソデ部は粘土を主体とし、補強材として須恵器甕00を両ソデに使用している。天井部はすでに崩落しており、埋土中に妻の破片を含む。煙道部は緩やかな火床面から煙道部で急に立ち上がる。炊口部分から煙道部にかけて多量の焼土層（9層）が確認できた。覆土の状況 自然埋没。遺物 実測可能な遺物は、土師器坏2、甕4、須恵器坏3、壺1である。遺物の出土状態は、00がカマドソデの補強材として使用されていた他、2、7、8がカマド内からの出土であり、この周辺に土器が集中する。



- 1 褐色土 (ロ-A 数少, C, IP 粒)
- 2 赤褐色土 (ロ-A 数や中多, 小ロ-A 数少, IP 粒)
- 3 暗黄褐色土 (ロ-A 数や中多, ロ-A 数少, しまる)
- 4 黄褐色土 (ロ-A 数や中多, SV, C)
- 5 暗黄褐色土 (ロ-A 数多 (集, C))
- 6 黄褐色土 (ロ-A 数や中多, C)
- 7 暗黄褐色土 (ロ-A 数や中多, ロ-A B, C)
- 8 暗黄褐色土 (ロ-A 数や中多, SV)
- 9 黄褐色土 (ロ-A 数少)
- 10 黄褐色土 (ロ-A 数少, SV, C)
- 11 暗褐色土 (ロ-A 数少)
- 12 黄褐色土 (ロ-A 数少, 小ロ-A B 中多)
- 13 黄褐色土 (ロ-A 数少)
- 14 暗黄褐色土 (ロ-A 数や中多, 小ロ-A B 少)
- 15 暗黄褐色土 (ロ-A 数)
- 16 暗黄褐色土 (ロ-A 数 + 小ロ-A 数多)
- 17 暗褐色土 (ロ-A 数少, IP)
- 18 暗褐色土 (ロ-A 数, IP)
- 19 暗褐色土 (ロ-A 数 + 小ロ-A B 中多, IP)
- 20 暗褐色土 (ロ-A 数少, IP)
- 21 暗褐色土 (ロ-A 数少)
- 22 黄褐色土 (ロ-A 数多, ロ-A B 中多, SV 少, 中粒)
- 23 黄褐色土 (ロ-A 数多, ロ-A B 中多, SV 少, 中粒)

0 2 m

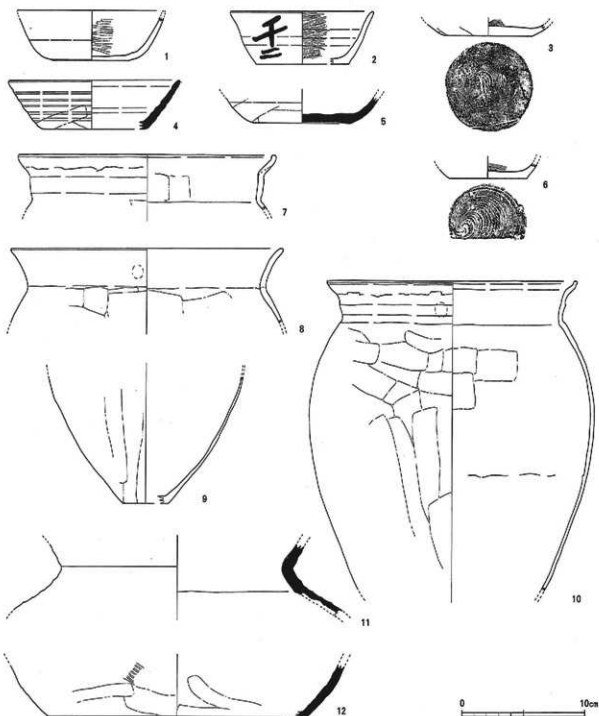
第14图 SI01平・断面图



第15図 SI01カマド平・断面図

No	器種	寸法 (cm)	形状の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
1	坏 (H)	口 (12.0) 高 (4.0) 底 6.2	平底で、体部は外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形。底部内面に一方向のヘラ磨き、体部横位のヘラミガキ。切り離しは回転糸切り。	褐色	砂粒、赤色スコリア粒	良好	塚土中	1/5 残 内面黒色処理
2	坏 (H)	口 (11.7) 高 (4.2) 底 (7.5)	平底で、体部は外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形。底部内面に一方向のヘラ磨き、体部横位のヘラミガキ。切り離しは回転糸切り。	明赤褐色	砂粒、輝石	良好	塚土中	1/8 残 内面黒色処理 「千二」墨書
3	坏 (H)	底 7.1	平底。	ロクロ成形。内面ヘラミガキ、回転糸切り後体部下半及び底部外周手持ちヘラケズリ。	橙褐色	砂粒、赤色スコリア粒	良好	床直	破片 内面黒色処理
4	坏 (S)	口 (14.3) 高 (3.9) 底 7.8	平底で、体部は外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形。回転糸切り後体部下半及び底部外周手持ちヘラケズリ。	灰色	白色砂粒	良好	塚土中	1/4 残
5	坏 (S)	底 8.0	平底。	ロクロ成形。回転糸切り後体部下半及び底部外周手持ちヘラケズリ。	灰色	白色砂粒	良好	塚土中	1/4 残
6	坏 (H)	底 6.3	平底。	ロクロ成形。内面ヘラミガキ、切り離しは回転糸切り。	褐色	砂粒、輝石	良好	塚土中	1/5 残 内面黒色処理
7	甕 (H)	口 (20.8)	口縁部が「コ」字状を呈する。	口縁部ヨコナデ、胴部上半ヘラケズリ。	褐色	砂粒、石英	良好	塚土中	破片
8	甕 (H)	口 (22.0)	口縁部が「く」字状を呈する。	口縁部ヨコナデ、胴部上半横位のヘラケズリ。	赤褐色	砂粒、赤色珪石粒	良好	塚土中	破片
9	甕 (H)	底 (3.6)	平底。	外面横位のヘラケズリ。	褐色	砂粒	良好	カマド	破片
10	甕 (H)	口 (20.2)	口縁部が「コ」字状を呈する。	口縁部ヨコナデ、胴部上半横位ヘラケズリ、下半縦位のヘラケズリ。	褐色	砂粒、赤色珪石粒	良好	カマド	1/3 残
11	甕 (S)			内外面剥落が目立つ。	灰色	雲母	不良	塚土中	破片
12	甕 (S)	底 (20.8)	平底。	ヘラケズリ後叩き。	灰色	雲母	不良	塚土中	破片
13	坏 (H)	口 (12.0) 高 (4.1) 底 (6.0)	平底で、体部は外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形。底部内面に一方向のヘラ磨き、体部横位のヘラミガキ。切り離しは回転糸切り。	赤褐色	砂粒、輝石	良好	塚土中	4/5 残 内面黒色処理

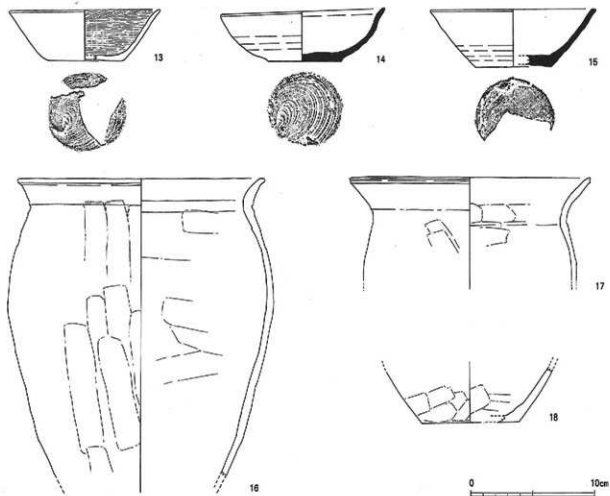
第4表 SI01遺物観察表(1)



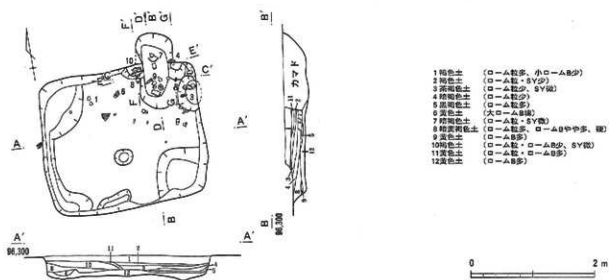
第16図 SI01出土遺物実測図(1)

No	器種	寸法 (cm)	器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
14	坏(S)	口 (13.1) 高 (3.8) 底 6.0	平底で、体部は内湾し口縁部に至る。	ロクロ成形。切り離しは回転糸切り。	灰白色	砂粒、小石	良好	カマド	完形
15	坏(S)	口 (13.5) 高 (4.6) 底 (6.2)	平底で、体部は外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形。切り離しは静止糸切り。	灰色	白色砂粒	良好	カマド	1/2残
16	甕(H)	口 19.8	口縁部が「く」字状を呈する。	口縁部ヨコナデ、胴部縦位のヘラケズリ、内面ヘラナデ。	褐色	砂粒、輝石	良好	埋土中	破片
17	甕(H)	口 (19.4)	口縁部が「く」字状を呈する。	口縁部ヨコナデ、胴部縦位のヘラケズリ、内面ヘラナデ。	褐色	砂粒、輝石	良好	埋土中	破片
18	甕(H)	底 (7.8)	平底。	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。	褐色	砂粒	良好	カマド	破片

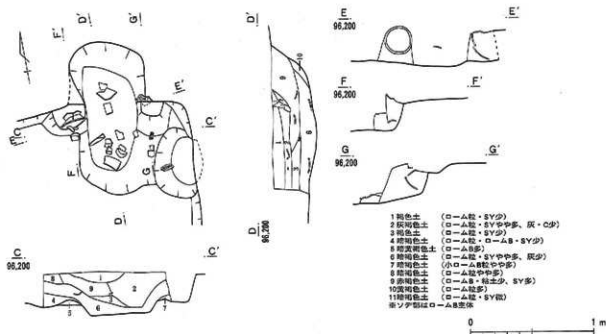
第5表 SI01遺物観察表(2)



第17図 SI01出土物突測図(2)



第18図 SI06平・断面図



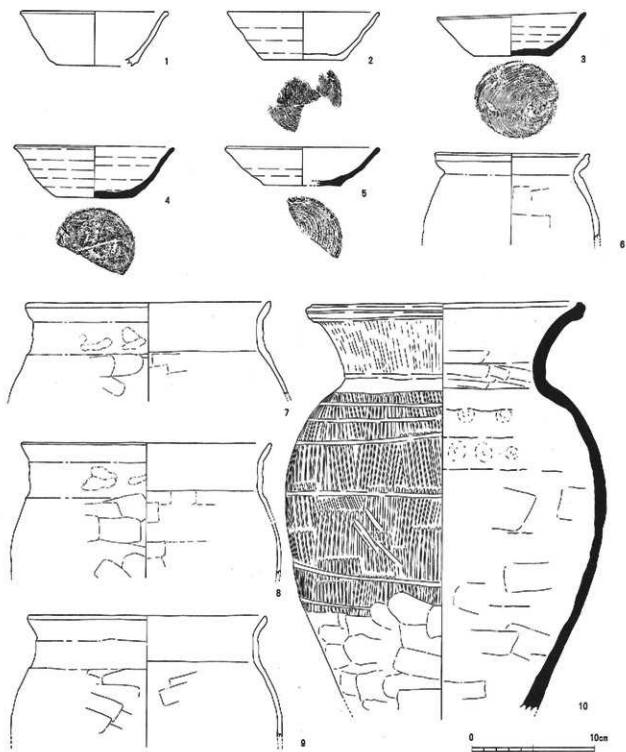
第19図 SI06カマド平・断面図

No	器種	寸法 (cm)	器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
1	坏(H)	□ (12.0) 高底 6.0	平底で、体部は外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形。	暗褐色	砂粒、小石	良好	床直	1/4残
2	坏(H)	□ (10.4) 高底 (3.9) 底 (6.4)	平底で、体部は外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形。切り離しは回転糸切り。	灰褐色	砂粒	良好	カマド	1/6残
3	坏(S)	□ (12.0) 高 (3.5) 底 (6.2)	平底で、体部は内湾気味に立ちあがり口縁部に至る。	ロクロ成形。切り離しは回転糸切り。	暗灰色	砂粒、小石	良好	埋土中	完形
4	坏(S)	□ (13.0) 高 (4.2) 底 (6.2)	平底で、体部は内湾気味に立ちあがり口縁部に至る。	ロクロ成形。切り離しはヘラ切り。	灰色	白色砂粒	良好	カマド	1/3残 ヘラ記号あり
5	坏(S)	□ (12.6) 高 (3.2) 底 (6.3)	平底で、体部は内湾気味に立ちあがり口縁部に至る。	ロクロ成形。切り離しは回転糸切り。	青灰色	白色砂粒	良好	カマド	1/5残
6	甕(H)	□ (12.6)	口縁部が陥み上げられ、外面に凹面を形成し直立する。	口縁部ヨコナデ、胴部外面ナデ、内面ヘラナデ。	暗褐色	砂粒、雲母、小石	良好	埋土中	破片
7	甕(H)	□ (20.0)	口縁部が「コ」字状を呈する。	口縁部ヨコナデ、胴部上半横位のヘラケズリ。	褐色	砂粒、石英	良好	カマド	破片
8	甕(H)	□ (20.4)	口縁部が「コ」字状を呈する。	口縁部ヨコナデ、胴部上半横位のヘラケズリ。	赤褐色	砂粒	良好	カマド	破片
9	甕(H)	□ (19.4)	口縁部が「コ」字状を呈する。	口縁部ヨコナデ、胴部上半横位のヘラケズリ。	赤褐色	砂粒	良好	カマド	破片
10	甕(S)	□ (22.0)	長胴で、胴部上半に最大径を持ち、口縁部は外反する。	胴部外面は平行タタキ後ヨコナデ、胴部外面、平行タタキ後下部をヘラケズリ、内面ナデ。	灰褐色	砂粒、雲母	良好	カマド	2/3残

第6表 SI06遺物観察表

SI07

位置 E-6 杭付近。平面形 ほぼ方形。規模 東西3.85m×南北3.2m。主軸方向 N-7°-E 床面 貼床で固くしめる。壁 壁高は30cmで、やや傾斜気味に立ち上がる。柱穴 無。貯蔵穴 北東隅に1カ所。カマド 北東隅寄りに設けられる。全長1.3m、炊口幅0.7m。ソデ部はローム掘り残しである。

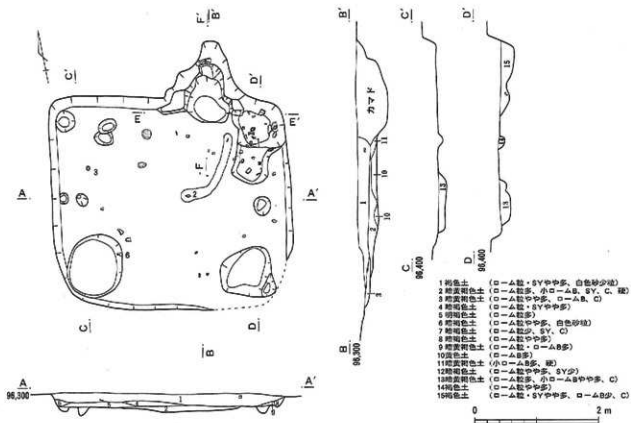


第20図 SI06出土遺物実測図

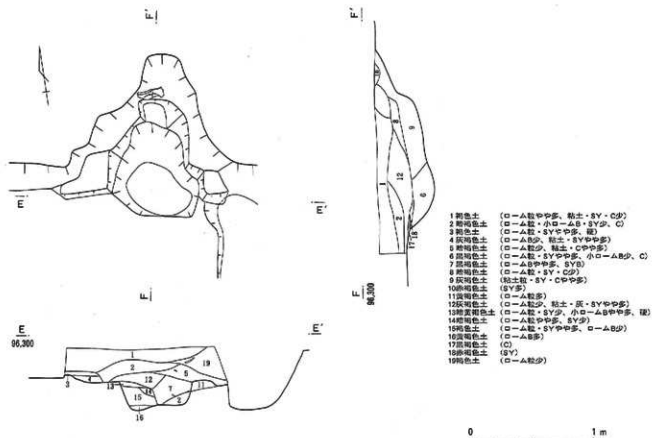
天井部はすでに崩落している。煙道部は緩やかな火床面から煙道部で急に立ち上がる。炊口部分から煙道部にかけて多量の焼土層(12層)が確認できた。覆土の状況 自然埋没。遺物 実測可能な遺物は、土師器 坏1、甕2、須恵器 坏2、灰釉陶器1である。

SI08

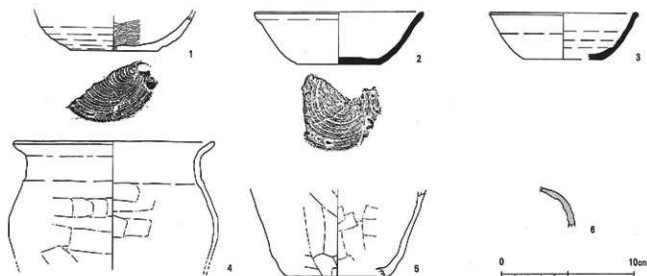
位置 F-8 杭付近。平面形 東西方向に長い方形。規模 東西5.0m×南北4.05m。主軸方向 N-5°-E



第21図 SI07平・断面図



第22図 SI07カマド平・断面図



第23図 SI07出土遺物実測図

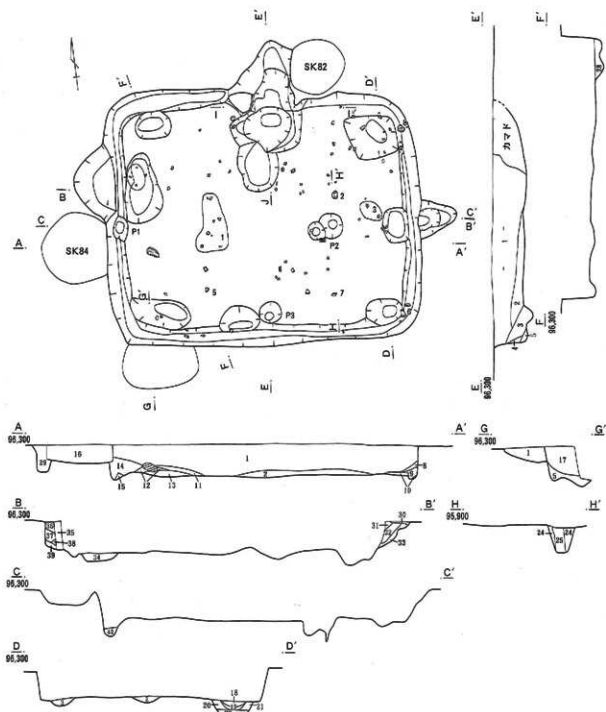
No	器種	寸法 (cm)	器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
1	坏(H)	口 (12.0) 高 (4.4) 底 6.0	平底で、体部は外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形。底部内面一方向のヘラミガキ、体部横位のヘラミガキ。切り離しは回転糸切り。	褐色	砂粒、石英	良好	床直	1/4 残
2	坏(S)	口 (12.8) 高 (3.9) 底 (6.4)	平底で、体部は外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形。切り離しは回転糸切り。	灰色	白色砂粒	良好	埋土中	1/5 残
3	坏(S)	口 (11.2) 高 (3.5) 底 (6.0)	平底で、体部は内湾気味に立ちあがり口縁部に至る。	ロクロ成形。切り離しは回転糸切り。	暗灰色	白色砂粒	良好	埋土中	1/6 残
4	甕(H)	口 (15.2)	口縁部が「コ」字状を呈する。	口縁部ヨコナデ、胴部上半横位のヘラケズリ。	赤褐色	砂粒	良好	貼り床	破片
5	甕(H)	底 (7.8)	長胴で、平底。	外面縦位のヘラケズリ、内面ヘラナデ。	淡褐色	砂粒	良好	カマド	破片
6	蓋 (灰釉陶器)			肩部に軸がかかる。	灰色	白色砂粒	良好	埋土中	破片

第7表 SI07遺物観察表

床面 四隅に浅い土坑をもつ。壁 壁高は50cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。また、幅20cm程の壁溝が北東部分を除いて全周する。柱穴 3本 (P1~P3)、その配列は不規則である。また、P2は2本の柱穴が重複する。貯蔵穴 無。カマド 西・北・東の3か所、東カマド及び西カマドが先行し、最後に北カマドに付け替えられた。北カマド 全長1.75m、炊口幅0.65m。東カマド 全長1.2m、炊口幅0.6m。西カマド 全長1.4m、炊口幅1.1m。覆土の状況 自然埋没。遺物 実測可能な遺物は、土師器環4、高台付坏1、甕1、台付甕1、須恵器環5、墨書土器5、この他に鉄製品として刀子2、不明1である。

SI09

位置 G-7 杭付近。平面形 本住居跡は拡張されている。当初の住居跡をSI09Aとし、拡張後をSI09Bとすると、両者ともやや東西に長い方形で、東と南壁を共有し、北と西側を拡張している。規模 SI09A 東西3.55m×南北2.9m SI09B 東西4.1m×南北3.9m。主軸方向 N-4°-W 床面 SI09Aは人為的に埋め戻されている。柱穴 南壁際に2カ所確認された。カマド SI09Aは全長1.2m、炊口幅0.5mで東壁中央に設置され、SI09Bは全長0.8m、炊口幅0.75mで北壁ほぼ中央に位置する。覆土の状況 自然埋没。遺物 実測可能な遺物は、土師器環3、甕5、台付甕1、墨書土器1、須恵器環転用の紡錘車1である。

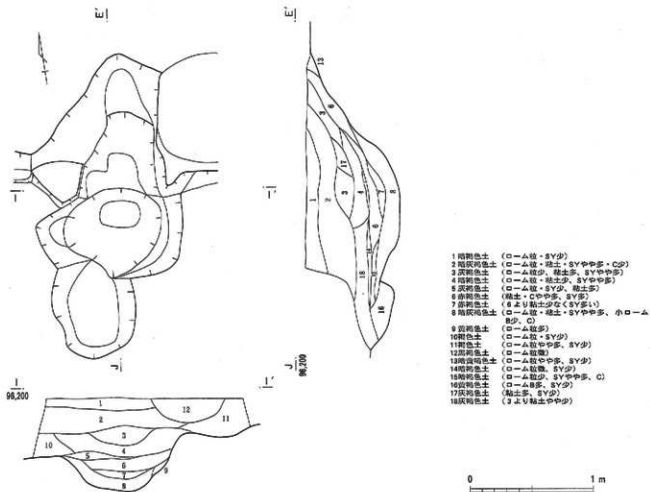


- 1 粉青色土 (□-△粒・SV少, C)
 2 青色土 (□-△粒中多, 小□-△B・粘土粒・SV・C少)
 3 赤褐色土 (□-△粒中多, C)
 4 暗褐色土 (□-△粒中多)
 5 暗褐色土 (□-△B多)
 6 暗褐色土 (粘土多, SV・C中多)
 7 灰褐色土 (粘土多, SV中多)
 8 赤褐色土 (□-△粒少)
 9 暗褐色土 (□-△粒少)
 10 暗褐色土 (□-△粒中多, □-△B)
 11 褐色土 (□-△粒中多, □-△B少, 粘土粒・SV)
 12 褐色土 (□-△粒少, C多)
 13 褐色土 (□-△粒中多, 大□-△B)
 14 褐色土 (□-△粒中多, 小□-△B少)

- 15 灰褐色土 (□-△B多)
 16 暗褐色土 (□-△粒・小□-△B中多)
 17 褐色土 (□-△粒少, IP)
 18 暗褐色土 (□-△粒・SV少)
 19 褐色土 (□-△粒・SV中多)
 20 暗褐色土 (□-△粒中多, C)
 21 褐色土 (□-△粒少, SV, C)
 22 暗褐色土 (□-△粒多, SV)
 23 灰褐色土 (□-△B多)
 24 暗褐色土 (□-△粒・小□-△B多, 中中粒)
 25 暗褐色土 (□-△粒多, 小□-△B少, 中中粒)
 26 暗褐色土 (小□-△B中多)
 27 暗褐色土 (□-△粒・小□-△B中多, SV)
 28 暗褐色土 (□-△粒中多, 大□-△B少)
 29 暗褐色土 (□-△粒中多, □-△B多)
 30 褐色土 (□-△粒・SV粒)

- 31 暗褐色土 (□-△粒・SV少, C)
 32 暗褐色土 (□-△粒・SV中多, 粘土少, C)
 33 暗褐色土 (□-△粒・□-△B中多)
 34 暗褐色土 (□-△B多, SV中多, C)
 35 褐色土 (□-△粒中多, □-△B・SV粒)
 36 暗褐色土 (□-△粒多, SV粒)
 37 暗褐色土 (□-△B多)
 38 暗褐色土 (□-△粒中多, 小□-△B少)
 39 暗褐色土 (□-△粒・小□-△B少)
 40 暗褐色土 (□-△粒・□-△B中多)

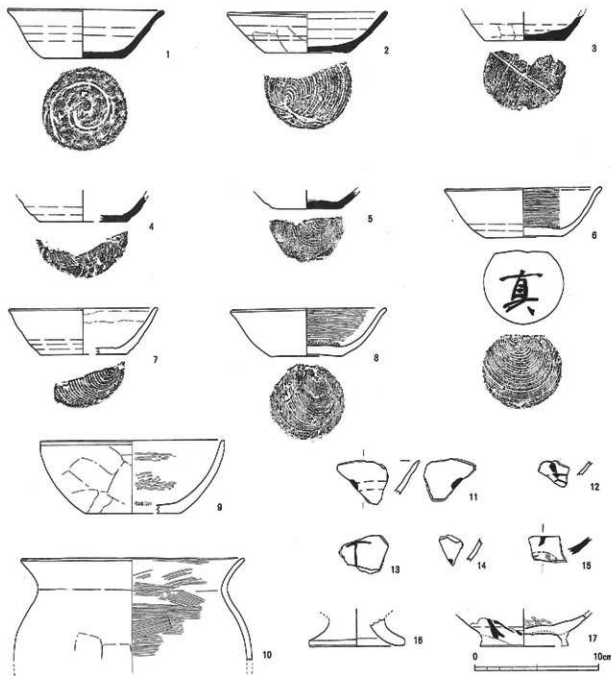
第24图 S108平・断面图



第25図 SI08カマド平・断面図

No	器種	寸法 (cm)	器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
1	坏(S)	口 (12.6) 高 (4.0) 底 (6.5)	平底で、体部は外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形。切り離しはヘラ切り。	青灰色	砂粒、小石	良好	カマド	3/4残
2	坏(S)	口 (13.0) 高 (3.3) 底 (6.8)	平底で、体部は外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形。切り離しは回転糸切り。	灰色	緻密	良好	床直	3/5残
3	坏(S)	底 (6.5)	平底。	ロクロ成形。切り離しはヘラ切り後、体部下端手持ちヘラズリ。	灰色	白色砂粒	良好	埋土中	破片
4	坏(S)	底 (7.0)	平底。	ロクロ成形。切り離しは回転糸切り。	灰色	白色砂粒	良好	埋土中	1/5残
5	坏(S)	底 (5.6)	平底。	ロクロ成形。切り離しは回転糸切り。	灰色	白色砂粒	良好	埋土中	1/4残
6	坏(H)	口 12.3 高 3.9 底 6.4	平底で、体部は内湾気味に立ちあがり、口縁部で緩く外反。	ロクロ成形。切り離しは回転糸切り。内面ヘラミガキ。	褐色	緻密	良好	床直	1/3残 内面黒色処理 「真」墨書
7	坏(H)	口 (12.2) 高 (3.6) 底 (6.9)	平底で、体部は外傾し口縁部に至る。	ロクロ成形。切り離しは回転糸切り。	赤褐色	白色砂粒	良好	床直	1/3残
8	坏(H)	口 12.7 高 3.9 底 6.0	平底で、体部は内湾気味に立ちあがり、口縁部で緩く外反。	ロクロ成形。切り離しは回転糸切り。内面ヘラミガキ。	褐色	緻密	良好	床直	完形 内面黒色処理
9	坏(H)	口 14.8 高 5.8 底 7.6	平底で、体部は内湾気味に立ちあがり口縁部に至る。	ロクロ成形。切り離しは回転糸切り。体部外面ヘラズリ、内面ヘラミガキ。	暗褐色	砂粒	良好	埋土中	1/5残 内面黒色処理
10	甕(H)	口 (17.8)	口縁部は「く」字状を呈する。	口縁部ヨコナデ、胴部外面ヘラズリ、内面ハケ。	淡褐色	砂粒、輝石	良好	埋土中	破片
11	坏(H)			ロクロ成形。	淡褐色	砂粒	良好	埋土中	破片 内外面に墨書

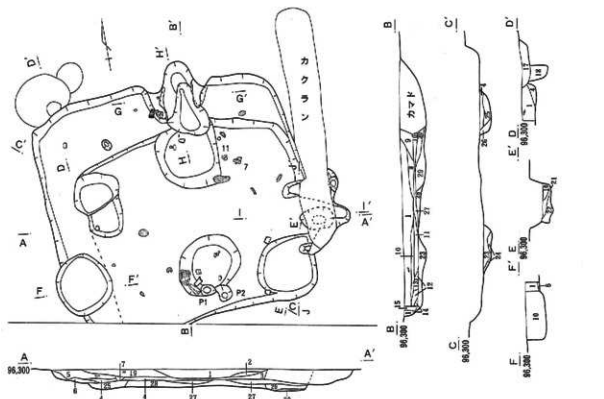
第8表 SI08遺物観察表(1)



第26図 SI08出土遺物実測図

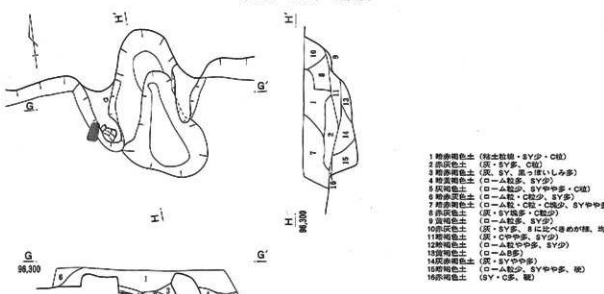
No	器種	寸法 (cm)	器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
12	坏(H)			ロクロ成形。	赤褐色	砂粒	良好	埋土中	「上」墨書
13	坏(H)			ロクロ成形。	褐色	砂粒	良好	埋土中	「十」墨書
14	坏(H)			ロクロ成形。	褐色	砂粒	良好	埋土中	墨書有り
15	坏(S)			ロクロ成形。	淡褐色	砂粒	良好	埋土中	墨書有り
16	甕(H)	底 (7.6)	台部を付す。	内外面ヨコナデ。	赤褐色	砂粒	良好	埋土中	破片
17	高台付坏(H)	底 (7.0)	高台を付す。	ロクロ成形。内面ヘラミガキ。	淡褐色	砂粒、小石	良好	埋土中	内面黒色処理 墨書有り

第9表 SI08遺物観察表(2)



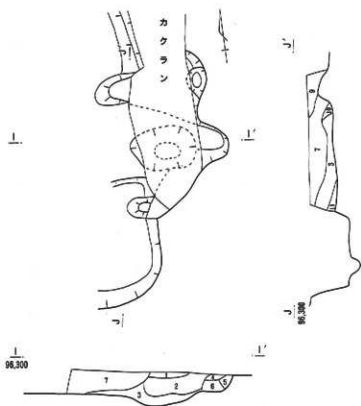
- | | |
|--------------------------|--------------------------------|
| 1 階褐色土 (ロ-ム壁・SV・C少) | 17 階色土 (ロ-ム壁少) |
| 2 階褐色土 (1止壁面以外はロ-ム壁) | 18 階褐色土 (ロ-ム壁少) |
| 3 階色土 (ロ-ム壁・SV・C少) | 19 階色土 (ロ-ム壁中多, SV・C少) |
| 4 階褐色土 (ロ-ム壁中多, 小ロ-ム壁少) | 20 階褐色土 (ロ-ム壁少) |
| 5 階褐色土 (ロ-ム壁・粘土壁・SV・C中多) | 21 階褐色土 (ロ-ム壁少, ロ-ム壁中多) |
| 6 階褐色土 (ロ-ム壁多, ロ-ム壁) | 22 階褐色土 (ロ-ム壁中多, ロ-ム壁多) |
| 7 階褐色土 (ロ-ム壁多, ロ-ム壁) | 23 階褐色土 (ロ-ム壁・小ロ-ム壁中多) |
| 8 階色土 (ロ-ム壁・粘土壁・SV・C少) | 24 階褐色土 (ロ-ム壁・ロ-ム壁多) |
| 9 階色土 (8よりSV中多) | 25 階褐色土 (ロ-ム壁多, 小ロ-ム壁中多) |
| 10 階褐色土 (粘土壁・SV多) | 26 階褐色土 (ロ-ム壁中多) |
| 11 階褐色土 (ロ-ム壁中多, 小ロ-ム壁) | 27 階褐色土 (ロ-ム壁中多, ロ-ム壁少, 壁) |
| 12 階褐色土 (ロ-ム壁・SV・C少) | 28 階褐色土 (ロ-ム壁多, C少) |
| 13 階褐色土 (ロ-ム壁中多, SV・C壁) | 29 階色土 (ロ-ム壁・ロ-ム壁中多, 粘土・SV少) |
| 14 階褐色土 (ロ-ム壁・小ロ-ム壁中多) | 30 階褐色土 (ロ-ム壁・粘土・SV中多, 小ロ-ム壁少) |
| 15 階褐色土 (ロ-ム壁多) | |
| 16 階褐色土 (ロ-ム壁少, 小ロ-ム壁中多) | |

第27図 S109平・断面図



- | |
|--------------------------------|
| 1 階赤褐色土 (粘土壁・SV少・C壁) |
| 2 階赤褐色土 (灰・SV多・C壁) |
| 3 階赤褐色土 (灰・SV・泥っぽいし多) |
| 4 階赤褐色土 (ロ-ム壁多, SV少) |
| 5 階褐色土 (ロ-ム壁少, SV中多・C壁) |
| 6 階赤褐色土 (ロ-ム壁・C壁少, SV多) |
| 7 階赤褐色土 (ロ-ム壁・C壁・C壁少, SV中多) |
| 8 階赤褐色土 (灰・SV多・C壁少) |
| 9 階褐色土 (ロ-ム壁多, SV少) |
| 10 階赤褐色土 (灰・SV多, 8に比べおのり多, 均質) |
| 11 階褐色土 (灰・C中多, SV少) |
| 12 階褐色土 (ロ-ム壁中多, SV少) |
| 13 階褐色土 (ロ-ム壁多) |
| 14 階赤褐色土 (灰・SV中多) |
| 15 階褐色土 (ロ-ム壁少, SV中多, 壁) |
| 16 階褐色土 (SV・C多, 壁) |

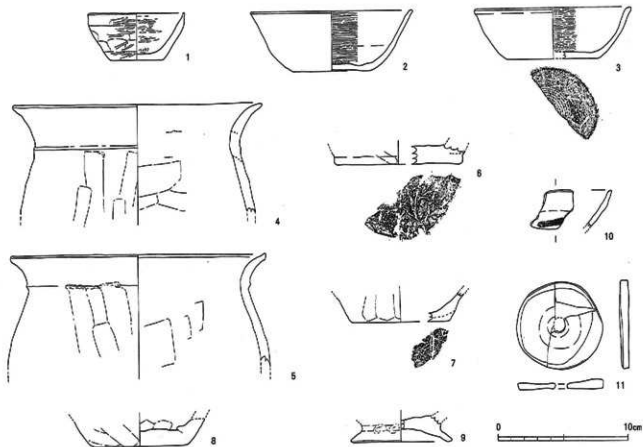
第28図 S109北カマド平・断面図



- 1 粘赤褐色土 (灰もしくは粘土多、SV少)
- 2 黒色土 (ローム少、SVごく少、粘性が高い、均質の黒色土)
- 3 粘赤褐色土 (灰・SV多)
- 4 赤褐色土 (粘土中や大、SV多)
- 5 灰褐色土 (SV中や多、灰)
- 6 灰褐色土 (ローム粒・SV少、灰混)
- 7 灰褐色土 (ローム粒・SV少)
- 10 粘褐色土 (ローム粒中や多)
- 11 粘褐色土 (ローム粒・SV・C粒少)

第29図 SI09東カマド平・断面図

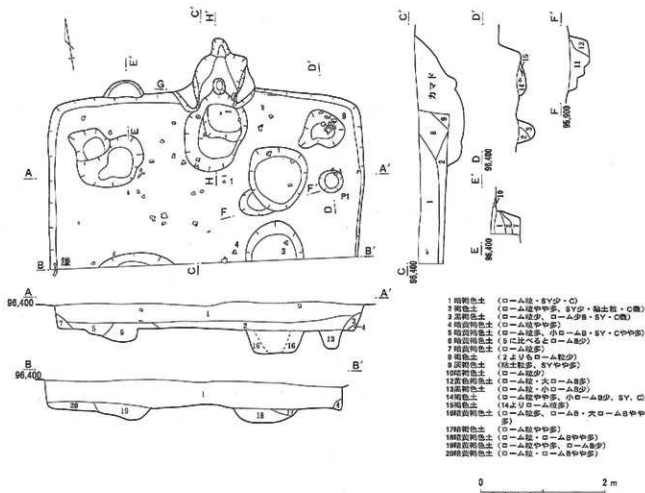
0 1 m



第30図 SI09出土遺物実測図

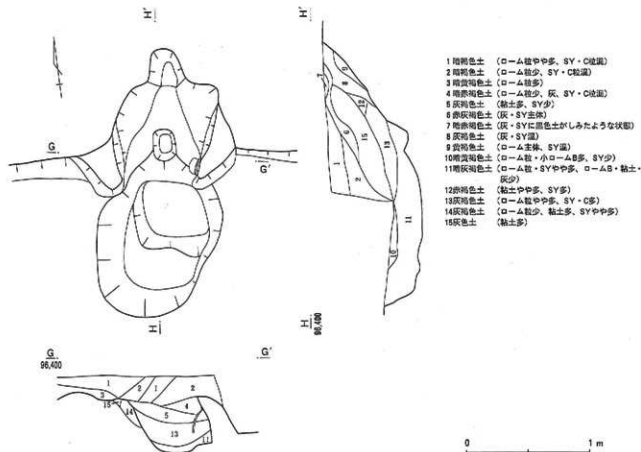
No	器種	寸法 (cm)	器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
1	坏(H)	口 7.4 高 3.6 底 4.0	平底で、体部は外傾し口縁部に至る。	口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。	淡褐色	砂粒	良好	埋土中	1/2残
2	坏(H)	口 (13.4) 高 4.6 底 (6.0)	平底で、体部は内湾気味に立ちあがり口縁部に至る。	ロクロ成形。切り離しは回転系切り。内面ヘラミガキ。	褐色	砂粒	良好	埋土中	1/6残 内面黒色処理
3	坏(H)	口 (12.1) 高 3.9 底 (7.0)	平底で、体部は内湾気味に立ちあがり口縁部に至る。	ロクロ成形。切り離しは回転系切り後周縁部回転ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	褐色	砂粒	良好	埋土中	1/5残 内面黒色処理
4	甕(H)	口 (19.2)	口縁部は「く」字状を呈する。	口縁部ヨコナデ、胴部外面縦位のヘラケズリ、内面ヘラナデ。	赤褐色	砂粒、小石	良好	埋土中	破片
5	甕(H)	口 (19.6)	口縁部は「く」字状を呈する。	口縁部ヨコナデ、胴部外面縦位のヘラケズリ、内面ヘラナデ。	赤褐色	砂粒、小石	良好	埋土中	破片
6	甕(H)	底 (9.6)	平底。	内面ヘラナデ。	褐色	砂粒、小石	良好	埋土中	破片 木炭底
7	甕(H)	底 (7.4)	平底。	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。	淡褐色	砂粒多い	良好	埋土中	破片 木炭底
8	甕(H)	底 (7.2)	平底。	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。	淡褐色	砂粒、小石	良好	埋土中	破片 木炭底
9	台付甕(H)	底 (7.6)	台部は「ハ」字状に開く。	内外面ヨコナデ。	淡褐色	砂粒、石英	良好	埋土中	破片
10	坏(H)			ロクロ成形。	淡褐色	砂粒	良好	カマド	破片 墨書有り
11	紡錘車(S)	径 6.6 孔径 1.1	ほぼ円形で中央に小孔を穿つ。	ロクロ成形。	灰色	砂粒	良好	埋土中	須恵器底転用

第10表 SI09遺物観察表



- 1 暗褐色土 (ロ-A粒・SY少・C)
- 2 褐色土 (ロ-A粒中多、SY少、粘土粒・C細)
- 3 赤褐色土 (ロ-A粒少、ロ-A少、SY・C細)
- 4 暗赤褐色土 (ロ-A粒中多)
- 5 暗赤褐色土 (ロ-A粒中多、小ロ-A・B・SY・C中多)
- 6 暗赤褐色土 (ロ-A粒中多、ロ-A・B・C)
- 7 暗赤褐色土 (ロ-A粒中多)
- 8 褐色土 (よりりロ-A粒少)
- 9 赤褐色土 (粘土多、SY中多)
- 10 暗褐色土 (ロ-A粒少)
- 12 赤褐色土 (ロ-A粒、大ロ-A・B多)
- 13 暗褐色土 (ロ-A粒少、小ロ-A・B多)
- 14 褐色土 (ロ-A粒中多、小ロ-A・B少、SY、C)
- 15 褐色土 (よりりロ-A中多)
- 16 暗赤褐色土 (ロ-A・B中多、ロ-A・B・大ロ-A・B中多)
- 17 暗赤褐色土 (ロ-A粒中多)
- 18 暗赤褐色土 (ロ-A粒、ロ-A中多)
- 19 暗赤褐色土 (ロ-A粒中多、ロ-A・B少)
- 20 暗赤褐色土 (ロ-A粒、ロ-A中多)

第31図 SI10平・断面図



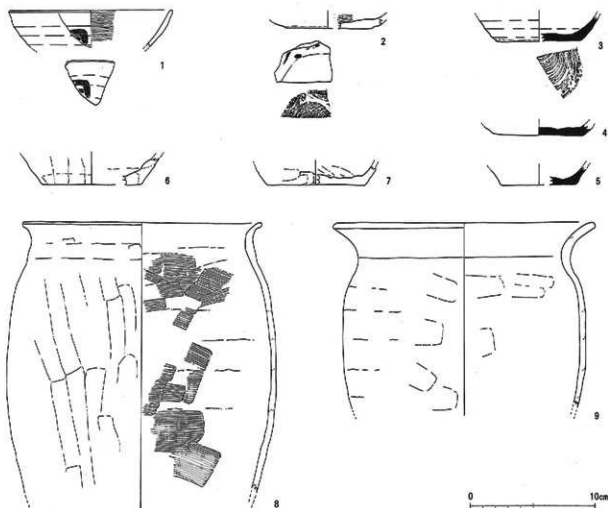
第32図 SI10カマド平・断面図

SI10

位置 G-6 杭付近。平面形 南壁が調査区外のため全体像がわからないが、やや東西に長い方形。規模 東西4.95m×南北一。主軸方向 N-7°-E 床面 ローム地山の硬い床。壁 ほぼ垂直に立ち上がる。柱穴 P1の1本。カマド 北壁ほぼ中央に設けられる。覆土の状況 自然埋没。遺物 実測可能な遺物は、土師器環2、甕4、須恵器環3、鎌1である。遺物の出土状態は、ほとんどが埋土中の出土である。

No	器種	寸法 (cm)	器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
1	環(H)	口 (13.0)	体部は内湾気味に口縁部に至る。	ロクロ成形。内面ヘラミガキ。	淡褐色	砂粒	良好	埋土中	内面黒色処理「明」#墨書
2	環(H)	底 (7.0)	平底。	ロクロ成形。切り離しは回転糸切り。内面ヘラミガキ。	淡褐色	砂粒	良好	埋土中	内面黒色処理墨書有り
3	環(S)	底 (6.8)	平底。	ロクロ成形。切り離しは回転糸切り。	灰色	砂粒、小石	良好	埋土中	1/6残
4	環(S)	底 (7.0)	平底。	ロクロ成形。	灰褐色	白色砂粒	良好	埋土中	破片
5	環(S)	底 (6.0)	平底。	ロクロ成形。切り離しはヘラ糸切り。	灰色	白色砂粒	良好	埋土中	破片
6	甕(H)	底 (8.0)	平底。	外面ヘラケズリ、内面ヘラナダ。	褐色	砂粒	良好	埋土中	破片
7	甕(H)	底 (7.0)	平底。	外面ヘラケズリ、内面粗いヘラケズリ。	褐色	砂粒多い	良好	埋土中	破片
8	甕(H)	口 (19.2)	長胴で、口縁部が幅広く外反する。	口縁部ヨコナダ、胴部外面縦位のヘラケズリ、内面ハケ。	淡褐色	砂粒、赤色307粒	良好	埋土中	1/5残
9	甕(H)	口 (21.2)	長胴で、口縁部が外反する。	口縁部ヨコナダ、内外面ナダ、輪痕痕を残す。	褐色	砂粒	良好	埋土中	破片 窯付着

第11表 SI10遺物観察表



第33図 SI10出土遺物実測図

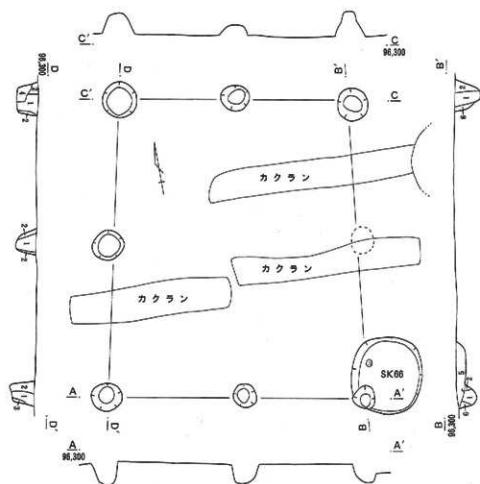
②掘立柱建物跡

SB05

位置 E-8 杭付近。規模 桁行 2間(4.8m) × 梁間 2間(4.0m)。柱間 桁行 2.4m 梁間 2.0m。主軸方向 N-6°-E 柱穴 円形で直径30~50cm。深さは確認面から20~40cm。切り合い関係 SK66に切られる。

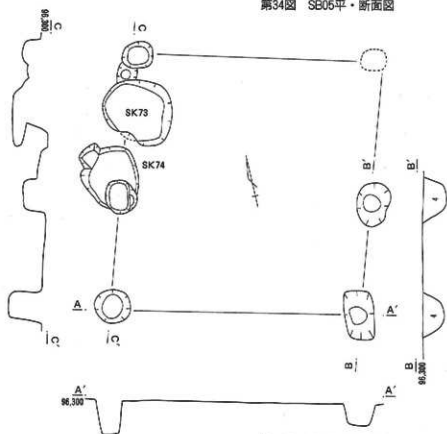
SB06

位置 E-6 杭付近。規模 桁行 2間(4.0m) × 梁間 1間(4.0m)。柱間 桁行 2.0m 梁間 2.0m。主軸方向 N-12°-E 柱穴 円形で直径50~60cm、もしくは隅丸長方形。長軸50~80cm、短軸35~50cm。深さは確認面から35~60cm。切り合い関係 SK74に切られる。



- 1 暗褐色土 (ローム粒少)
- 2 褐色土 (ローム粒やや多)
- 3 暗褐色土 (小ローム粒少)
- 4 暗褐色土 (ローム粒中多、小ローム多)
- 5 褐色土 (ローム粒やや多、小ローム多)
- 6 暗褐色土 (ローム粒多)

第34図 SB05平・断面図



- 4 暗褐色土 (ローム粒・自然砂粒・sy・c少)

第35図 SB06平・断面図



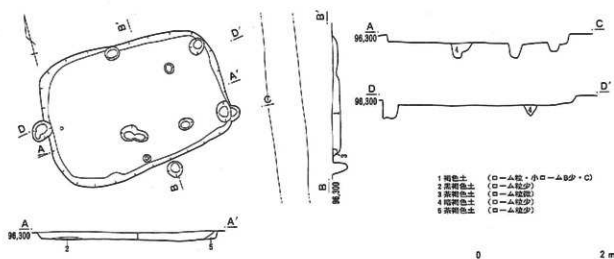
3 中・近世

調査区内から4軒の竪穴建物跡と15棟の掘立柱建物跡が確認できた。配置は、竪穴建物跡が調査区のほぼ中央に位置し、その東側に掘立柱建物跡が集中する他は散在的である。この他に多数の土坑を確認したが、出土遺物が少なく時期を特定することは難しい。但し、遺物の出土した土坑をみると中世の土師器皿を出土しているものがある。土坑については別の項で述べる。

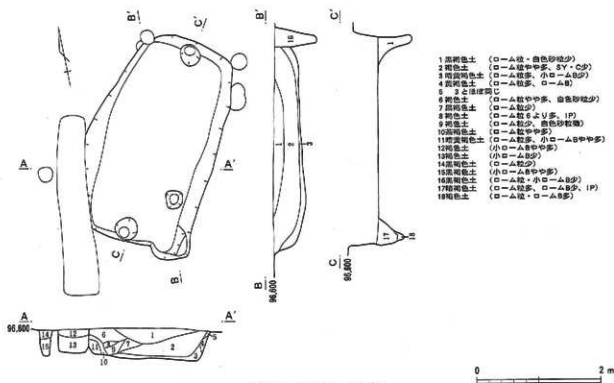
①竪穴建物跡

ST02

位置 D-8 杭付近。平面形 東西に長い長方形。規模 東西2.9m×南北2.0m。主軸方向 N-0°-E



第36図 ST02平・断面図



第37図 ST03平・断面図

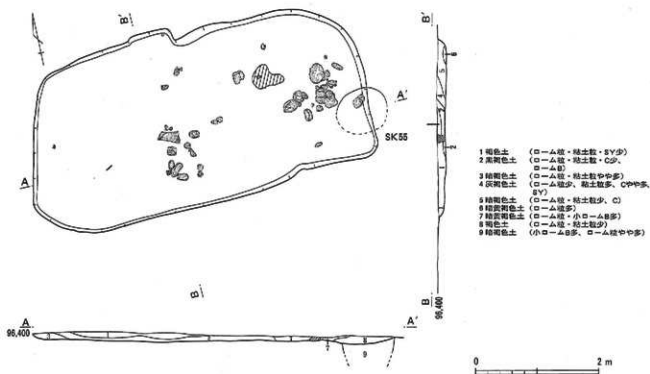
床面 ローム地山。炉 無。壁 ほぼ垂直に立ち上がる。柱穴 多数あるが、すべてが伴うかどうかは不明。覆土の状況 自然埋没。遺物 実測可能な遺物は無し。

ST03

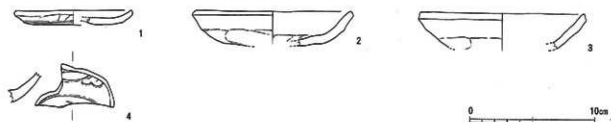
位置 D-9 杭付近。平面形 南北に長い長方形。規模 東西3.3m×南北2.05m。主軸方向 N-35°-E
床面 ローム地山。炉 無。壁 ほぼ垂直に立ち上がる。柱穴 南北の中軸線上に2本。覆土の状況 自然埋没。遺物 実測可能な遺物は無し。

ST04

位置 D-5 杭付近。平面形 東西に長い長方形。規模 東西5.4m×南北2.9m。主軸方向 N-4°-W
床面 ローム地山。炉 中央より東寄りに位置する。焼けた凝灰岩や河原石が周辺に散在する。壁 確認面からの深さが非常に浅い。柱穴 無。覆土の状況 自然埋没。切り合い関係 SK55を切る。遺物 実測可能な遺物は、土師器皿3、青磁碗1である。



第38図 ST04平・断面図



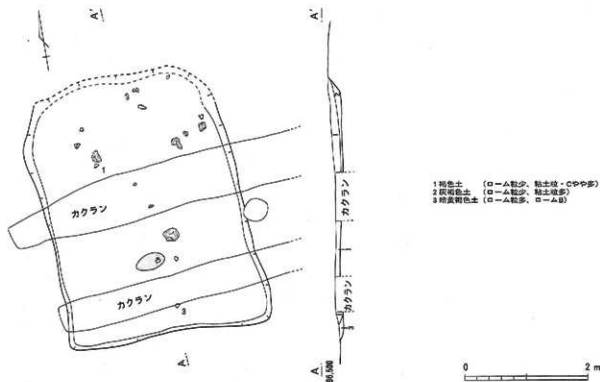
第39図 ST04出土遺物実測図

No	器種	寸法 (cm)	器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
1	皿(皿)	口 (9.4) 高 (1.2) 底 (7.4)	窪み底。	手づくね成形。	赤褐色	緻密	良好	埋土中	破片
2	皿(皿)	口 (12.5) 高 2.9	丸底気味。	手づくね成形。	褐色	砂粒、赤色入り粒	良好	埋土中	破片
3	皿(皿)	口 (13.2) 高 (2.9)	丸底気味。	手づくね成形。	褐色	緻密	良好	埋土中	破片
4	青磁碗	口 (18.0)		内面に片切文様が施される。	ブルー色	緻密	良好	埋土中	破片

第12表 ST04遺物観察表

ST05

位置 D-6 杭付近。平面形 南北に長い長方形。規模 東西4.0m×南北3.0m 主軸方向 N-0°-E 床面 ローム地山。伊 中央より南寄りに位置する。壁 確認面からの深さが非常に浅い。柱穴 無。覆土の状況 自然埋没。遺物 実測可能な遺物は、土師器皿3である。



第40図 ST05平・断面図



第41図 ST05出土遺物実測図

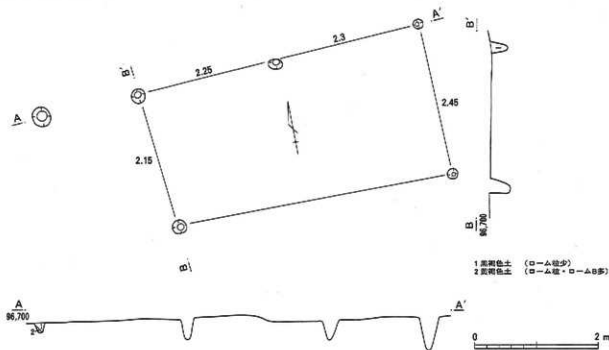
No	器種	寸法 (cm)	器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
1	皿(皿)	口 (12.0) 高 (3.0) 底 (8.0)	平底。	手づくね成形。	赤褐色	緻密	良好	埋土中	破片
2	皿(皿)	口 (14.3) 高 (2.6)	平底。	手づくね成形。	褐色	砂粒、赤色入り粒	良好	埋土中	破片
3	皿(皿)	口 (13.0) 高 (2.6)	平底気味。	手づくね成形。	褐色	緻密	良好	埋土中	破片

第13表 ST05遺物観察表

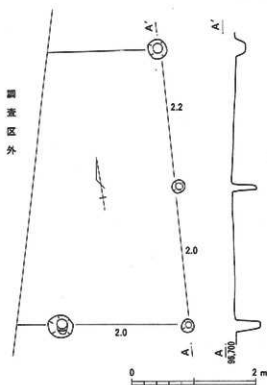
②掘立柱建物跡

SB02

位置 B-4 杭付近。規模 桁行 2 間 (4.6m) × 梁間 1 間 (2.4m)。柱間 桁行 2.25~2.3m
 梁間 2.15~2.45m。主軸方向 N-12°-E 柱穴 円形で直径15~20cm。深さは確認面から30~50cm。
 備考 南壁中央の柱穴は確認できなかった。



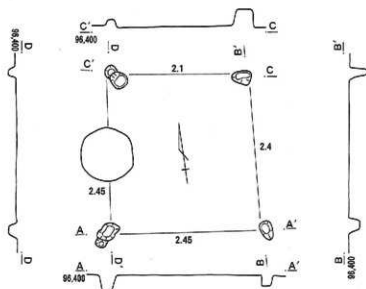
第42図 SB02平・断面図



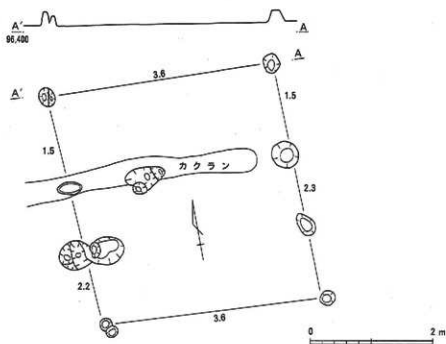
第43図 SB03平・断面図

SB03

位置 B-3 杭付近。規模 桁行 一 間 一
 m × 梁間 2 間 (4.0m)。柱間 桁行 一
 m 梁間 2.0m。主軸方向 N-17°-E 柱穴
 円形で直径50~60cm、もしくは隅丸長方形で長軸
 50~80cm、短軸35~50cm。深さは確認面から35
 ~60cm。備考 東側が調査区外に出してしまうた
 め、規模は不明。



第44図 SB07平・断面図



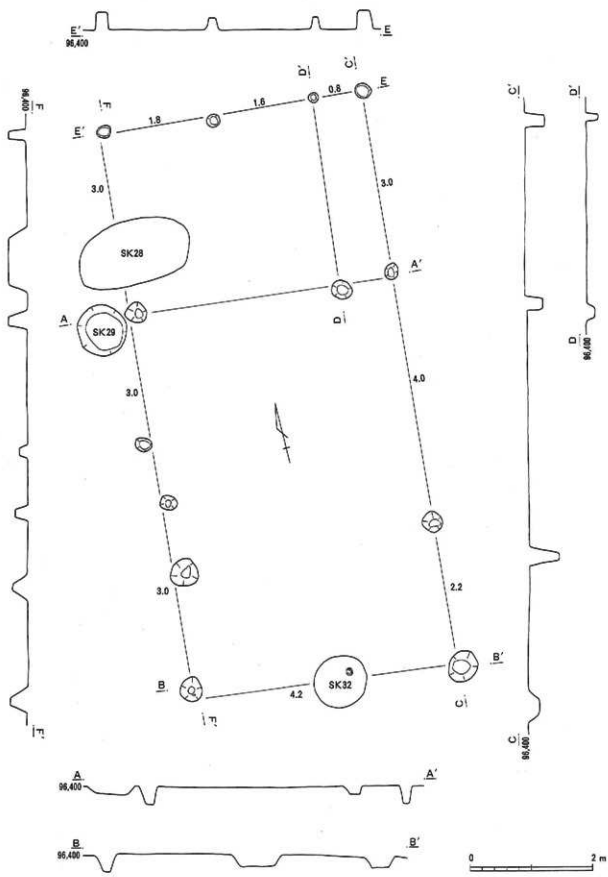
第45図 SB09平・断面図

SB07

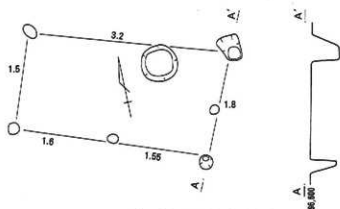
位置 A-7 杭付近。規模 桁行 1間(2.45m) × 梁間 1間(2.45m)。柱間 桁行 2.1~2.45m 梁間 2.4~2.45m。主軸方向 N-3°-E 柱穴 円形で直径20cm、もしくは楕円形で長軸30cm、短軸20cm。深さは確認面から10~30cm。

SB08

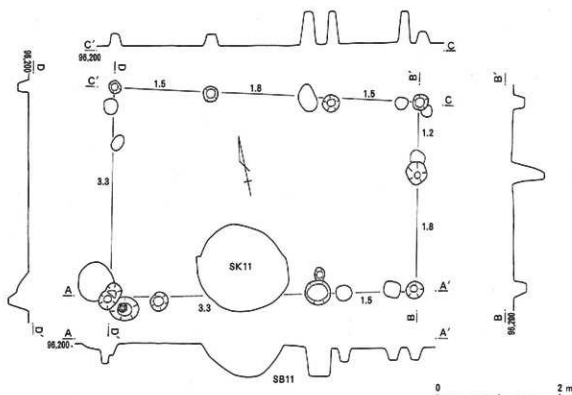
位置 A-7 杭付近。規模 桁行 3間(9.0m) × 梁間 2間(4.2m)。柱間 桁行 2.2~4.0m 梁間 0.8~4.2m。主軸方向 N-1°-E 柱穴 円形で直径15~50cm、深さは確認面から20~50cm。備考 SK28と重複する。



第46图 SB08平·断面图



第47図 SB10平・断面図



第48図 SB11平・断面図

SB09

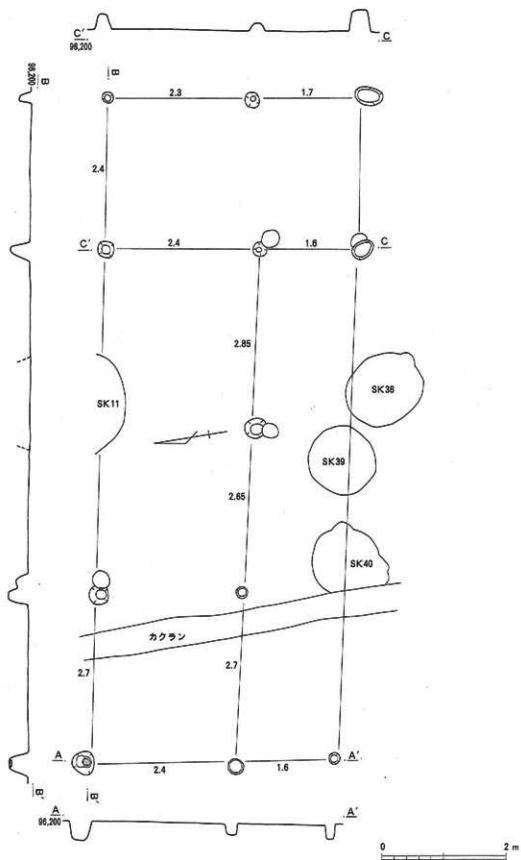
位置 B-6 杭付近。規模 桁行 1間(3.6m) × 梁間 2間(3.8m)。柱間 桁行 3.6m 梁間 1.5~2.3m。主軸方向 N-0°-E 柱穴 円形で直径15~40cm、深さは確認面から15~20cm。備考 溝状の遺構により柱穴の一部が切られる。

SB10

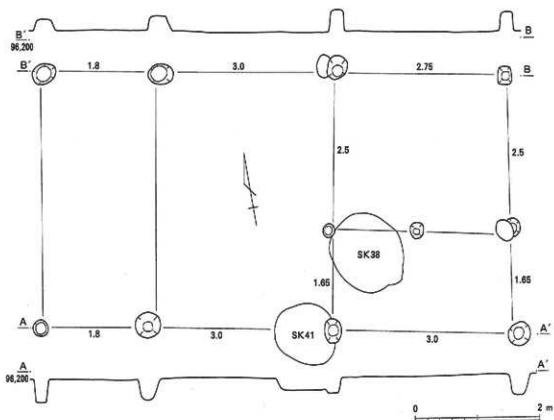
位置 C-10 杭付近。規模 桁行 2間(3.2m) × 梁間 1間(1.8m)。柱間 桁行 1.5~3.2m 梁間 1.5~1.8m。主軸方向 N-17°-E 柱穴 円形で直径15~20cm、もしくは楕円形で長軸35cm、短軸25cm。深さは確認面から40~45cm。

SB11

位置 D-10 杭付近。規模 桁行 3間(4.85m) × 梁間 2間(3.3m)。柱間 桁行 1.5~3.3m



第49図 SB12平・断面図

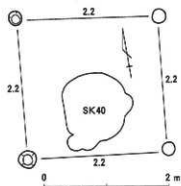


第50図 SB13平・断面図

梁間 1.2~3.3m。主軸方向 N-13°-E 柱穴 円形で直径15~35cm、深さは確認面から15~50cm。備考 SK11と重複する。

SB12

位置 D-10杭付近。規模 桁行 4間(10.6m)×梁間 2間(4.0m)。柱間 桁行 2.4~2.85m 梁間 1.6~2.4m。主軸方向 N-10°-E 柱穴 円形で直径15~35cm、もしくは楕円形長軸30cm、短軸20cm。深さは確認面から15~30cm。備考 SB13・SK38~40と重複する。北西隅柱穴から土師器皿1点出土。



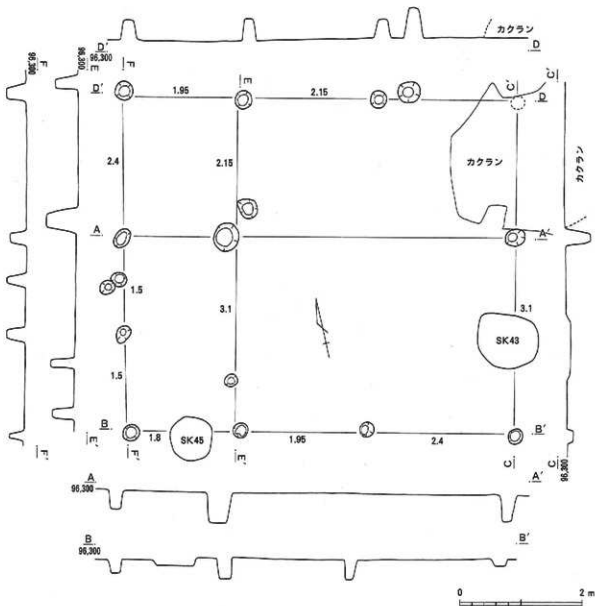
第51図 SB14平・断面図

SB13

位置 D-10杭付近。規模 桁行 3間(7.6m)×梁間 2間(4.1m)。柱間 桁行 1.8~3.0m 梁間 1.65~4.1m。主軸方向 N-10°-E 柱穴 円形で直径15~30cm、深さは確認面から20~35cm。備考 SK41・38・SB12と重複する。

SB14

位置 D-9杭付近。規模 桁行 1間(2.2m)×梁間 1間(2.2m)。柱間 桁行 2.2m 梁間 2.2m。主軸方向 N-5°-E 柱穴 円形で直径20~25cm、深さは不明。備考 SK40・SB12と重複する。東側柱穴2本は確認のみ。



第52図 SB16平・断面図

SB 16

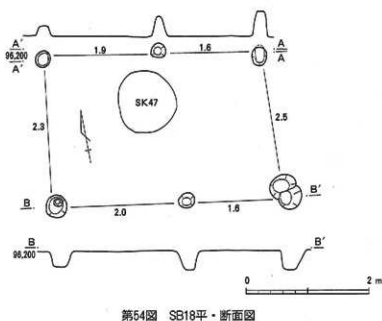
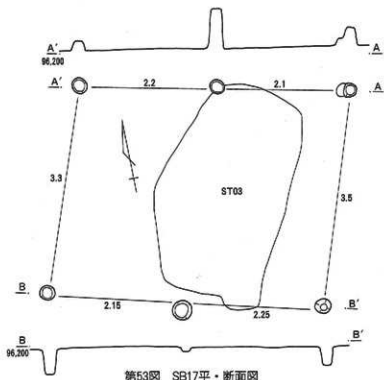
位置 E-9 杭付近。規模 桁行 3間 (4.5m) × 梁間 2間 (3.0m)。柱間 桁行 1.5m 梁間 1.5~3.0m。主軸方向 N-10°-E 柱穴 円形で直径15~30cm、深さは確認面から20~35cm。備考 SK 43・45と重複する。

SB 17

位置 D-9 杭付近。規模 桁行 2間 (4.5m) × 梁間 1間 (3.5m)。柱間 桁行 2.1~2.25m 梁間 3.3~3.5m。主軸方向 N-18°-E 柱穴 円形で直径20~30cm、深さは確認面から10~65cm。備考 ST03と重複する。

SB 18

位置 D-9 杭付近。規模 桁行 2間 (3.65m) × 梁間 1間 (2.4m)。柱間 桁行 1.6~2.1m 梁間 2.4m。主軸方向 N-5°-E 柱穴 円形で直径25~35cm、深さは確認面から20~40cm。備考 SK 47と重複する。

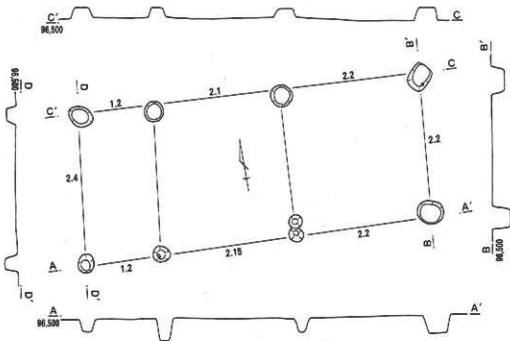


SB19

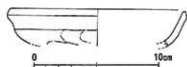
位置 D-3 杭付近。規模 桁行 2間半 (3.7m) × 梁間 1間 (2.4m)。柱間 桁行 2.1~2.2m 梁間 2.2~2.4m。主軸方向 N-4°-E 柱穴 円形で直径20~40cm、深さは確認面から20~35cm。備考 柱穴中より土師器皿1点出土。

SB20

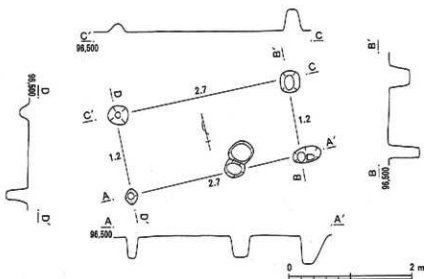
位置 E-5 杭付近。規模 桁行 1間 (2.7m) × 梁間 1間 (1.2m)。柱間 桁行 2.7m 梁間 1.2m。主軸方向 N-1°-E 柱穴 円形で直径20~30cm、もしくは楕円形で長軸35cm、短軸20~30cm。深さは確認面から15~50cm。



第56図 SB19平・断面図



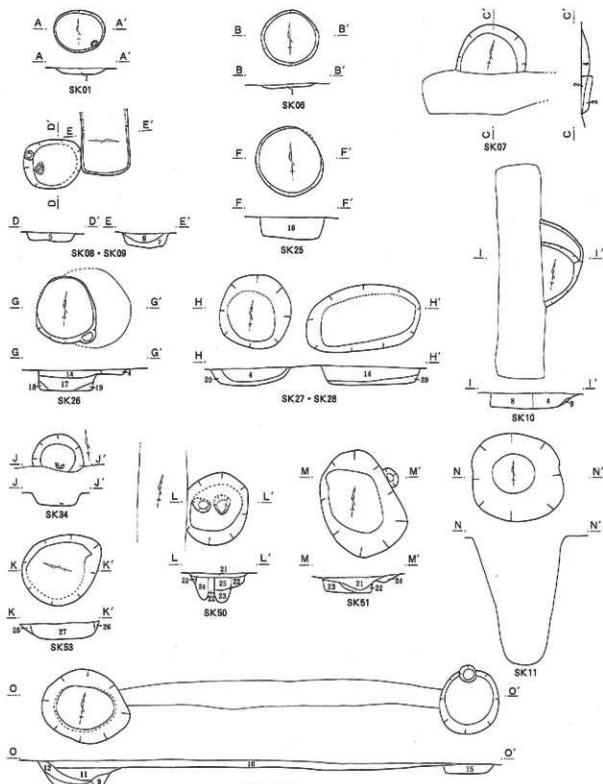
第56図 SB19出土遺物実測図



第57図 SB20平・断面図

③土坑 (第14表)

調査区内では円形及び長方形の土坑が多数確認された。調査期間の都合上全てを完掘することができなかった。円形の土坑は直径1 m前後のものが多く、出土遺物には土師器皿等が見られる。長方形の土坑は長さが3 m以上のものが多く、その断面形態や人為的に埋め戻されている状況などから後世のものも多く含まれる。尚、長方形の土坑が円形の土坑を切っている状況が土層観察から窺える。



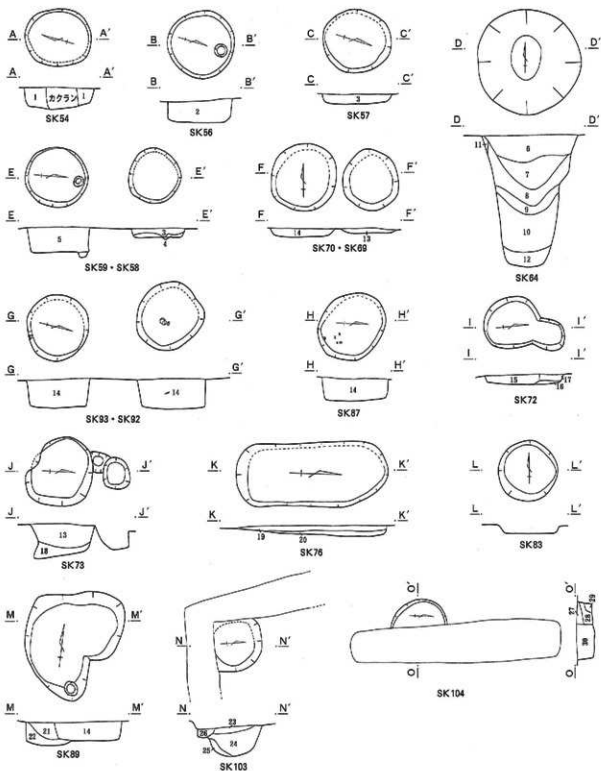
- 1 圆形土坑 (口—A—径少, IP—C)
 2 圆形土坑 (口—A—径, 小口—A—径少)
 3 圆形土坑 (口—A—径, 小口—A—径少)
 4 圆形土坑 (口—A—径少)
 5 圆形土坑 (口—A—径少)
 6 圆形土坑 (口—A—径, 柱土粒, SY—C)
 7 圆形土坑 (口—A—径, 口—A—径少)
 8 圆形土坑 (口—A—径多, 口—A—径中多)
 9 圆形土坑 (口—A—径多)
 10 圆形土坑 (口—A—径中多)
 11 圆形土坑 (口—A—径, SY—少, C)
 12 圆形土坑 (口—A—径中多, 小口—A—径少)
 13 圆形土坑 (口—A—径, 口—A—径中多)
 14 圆形土坑 (口—A—径, 小口—A—径中多)
 15 圆形土坑 (灰及灰土)

- 16 圆形土坑 (口—A—径, 小口—A—径中多, SY—少)
 17 圆形土坑 (口—A—径, SY—少)
 18 圆形土坑 (口—A—径多)
 19 圆形土坑 (口—A—径中多, SY—少)
 20 圆形土坑 (口—A—径中多, 口—A—径多)
 21 圆形土坑 (口—A—径, C—IP—少)
 22 圆形土坑 (口—A—径多, 口—A—径—IP—少)
 23 圆形土坑 (口—A—径多—IP—少)
 24 圆形土坑 (口—A—径, 口—A—径—柱土粒—少)
 25 圆形土坑 (口—A—径, IP—少)
 26 圆形土坑 (口—A—径多, 口—A—径—柱土粒—IP—少)
 27 圆形土坑 (口—A—径中多, 口—A—径—IP—少)

L = A—E—I = 96.700 m
 F—G—O = 96.500 m
 H—K = 96.400 m
 J—N = 96.200 m
 L—M = 96.300 m

0 2 m

第58图 土坑平、断面图(1)



- 1 粘褐色土 (ロ-A段・ロ-AB少)
- 2 明褐色土 (ロ-A段・ロ-A中中多・IP少)
- 3 粘褐色土 (ロ-A段少・明)
- 4 粘褐色土 (ロ-A段少・ロ-AB少)
- 5 明褐色土 (ロ-A段・ロ-A中中多)
- 6 褐色土 (ロ-A段少・褐色砂・C)
- 7 褐色土 (ロ-A段中多・小ロ-A中・IP・SP少)
- 8 明褐色土 (ロ-A段少・小ロ-A中・IP・SP少)
- 9 粘褐色土 (ロ-A段少・ロ-A中中多・SP)
- 10 黄土土 (ロ-A中)
- 11 粘褐色土 (ロ-A段少・ロ-AB少)
- 12 黄土土 (ロ-A中・K中)
- 13 褐色土 (ロ-A段少・白色砂)
- 14 褐色土 (ロ-A段少・小ロ-A中中多)
- 15 粘褐色土 (ロ-A段・小ロ-A中・SV・C中中多)
- 16 褐色土 (ロ-A段・SV・CP)
- 17 粘褐色土 (ロ-A中中多・ロ-AB少)

- 18 粘褐色土 (ロ-A中中多・ロ-AB少)
- 19 褐色土 (ロ-A段・褐色砂・CP)
- 20 黄土土 (ロ-A段少)
- 21 黄土土 (ロ-A段少)
- 22 粘褐色土 (ロ-A段・ロ-A中多)
- 23 粘褐色土 (ロ-A段・ロ-A中多)
- 24 粘褐色土 (ロ-A段・小ロ-A中・SV・CP)
- 25 粘褐色土 (ロ-A段・C)
- 26 黄土土 (ロ-A中)
- 27 粘褐色土 (泥少・IP)
- 28 粘褐色土 (泥・黄土少・SV・CP)
- 29 黄土土 (ロ-A中)
- 30 黄土土 (ロ-A中中多・ロ-A中・泥少)

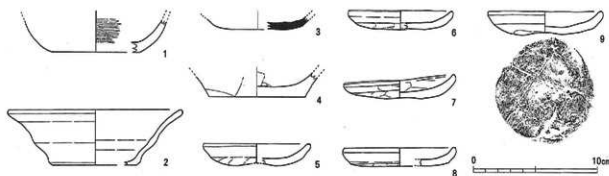
- L = A - G - K - M - O = 96,400m
- B - C - E = 96,500m
- D - F - N = 96,300m
- L = 96,200m



第59図 土坑平・断面図(2)

遺構番号	平面形	規模 (m)	深さ(m)	埋土状況	備考
SK01	楕円形	0.8×0.65	0.1	自然堆積	
SK06	円形	直径0.85	0.05	自然堆積	
SK07	円形	直径1.05	0.1	自然堆積	長方形の土坑に切られる。
SK08	楕円形	0.9×0.75	0.15	自然堆積	
SK09	長方形	- ×0.75	0.25	自然堆積	
SK10	円形	直径1.3	0.2	自然堆積	長方形の土坑に切られる。
SK11	円形	直径1.5	2.0	自然堆積	
SK19	円形	直径1.0	0.1	自然堆積	溝状の遺構に切られる。
SK20	楕円形	1.4×1.25	0.65	自然堆積	溝状の遺構に切られる。
SK25	円形	直径1.1	0.3	自然堆積	
SK26	円形	直径1.0	0.3	自然堆積	
SK27	隅丸方形	一辺1.0	0.25	自然堆積	
SK28	長方形	1.8×1.05	0.3	自然堆積	
SK34	円形	直径0.8	0.2	自然堆積	土師器皿2枚出土。
SK50	円形	直径1.05	0.25	自然堆積	長方形の土坑に切られる。
SK51	不整形	1.7×1.1	0.25	自然堆積	
SK53	不整形	1.15×1.0	0.2	自然堆積	
SK54	円形	直径1.05	0.3	自然堆積	中央に攪乱が入る。
SK56	円形	直径1.05	0.3	自然堆積	
SK57	円形	直径1.0	0.15	自然堆積	土師器皿出土
SK58	円形	直径0.8	0.15	自然堆積	
SK59	円形	直径1.0	0.4	自然堆積	
SK64	円形	直径1.65	2.0	自然堆積	
SK69	円形	直径0.9	0.1	自然堆積	
SK70	円形	直径1.05	0.1	自然堆積	
SK72	不整形	1.3×0.8	0.15	自然堆積	
SK73	不整形	1.1×1.05	0.5	自然堆積	南側の壁がオーバーハングする。
SK83	円形	直径0.95	0.1	自然堆積	土師器甕片出土
SK76	長方形	2.4×1.0	0.15	自然堆積	
SK87	円形	直径1.0	0.35	自然堆積	土師器坏片出土
SK89A	円形	直径0.95	0.25	自然堆積	SK89Bを切る。
SK89B	楕円形	1.8×1.0	0.35	自然堆積	SK89Aに切られる。
SK92	円形	直径1.1	0.5	自然堆積	須恵器坏、土師器皿出土。
SK93	円形	直径1.0	0.5	自然堆積	土師器坏出土。
SK103	円形	直径0.9	0.5	自然堆積	溝状遺構に切られる。
SK104	円形	直径0.9	0.25	自然堆積	土師器皿出土。

第14表 土坑一覧表



第60図 土坑出土遺物実測図

No	器種	寸法 (cm)	器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
1	坏(H)	底 (8.0)	平底。	ロクロ成形、内面ヘラミガキ。	乳白色	砂粒、赤色スロ7粒	良好	SK 8 7 埋土中	破片
2	坏(H)	口 (14.0) 高 (4.4) 底 (6.8)	平底で、体部が外反気味に立ち上がり口縁部に至る。	ロクロ成形、内面ナデ。	黄褐色	砂粒、小石	良好	SK 9 3 埋土中	1/4 残
3	坏(S)	底 (7.0)	平底。	ロクロ成形。	灰色	砂粒	良好	SK 9 2 埋土中	破片
4	壺(H)	底 (7.8)	平底。	内面ヘラナデ。外面ヘラケズリ。	褐色	砂粒、赤色スロ7粒	良好	SK 8 3 埋土中	破片
5	皿(H)	口 (8.6) 高 (1.8)	窪み底。	手づくね成形。	赤褐色	砂粒、赤色スロ7粒	良好	SK 5 7 埋土中	1/3 残
6	皿(H)	口 (8.5) 高 (1.5)	丸底気味。	手づくね成形。	淡褐色	緻密	良好	SK 9 2 埋土中	1/3 残
7	皿(H)	口 (8.9) 高 (1.5)	丸底気味。	手づくね成形。	淡褐色	砂粒、赤色スロ7粒	良好	SK 104 埋土中	2/3 残
8	皿(H)	口 (9.0) 高 (1.5)	丸底気味。	手づくね成形。	橙褐色	緻密	良好	SK 3 4 埋土中	1/3 残
9	皿(H)	口 (9.1) 高 (1.9)	窪み底。	手づくね成形。	橙褐色	砂粒、赤色スロ7粒	良好	SK 3 4 埋土中	完形

第15表 土坑遺物観察表

④堀・溝

1号堀

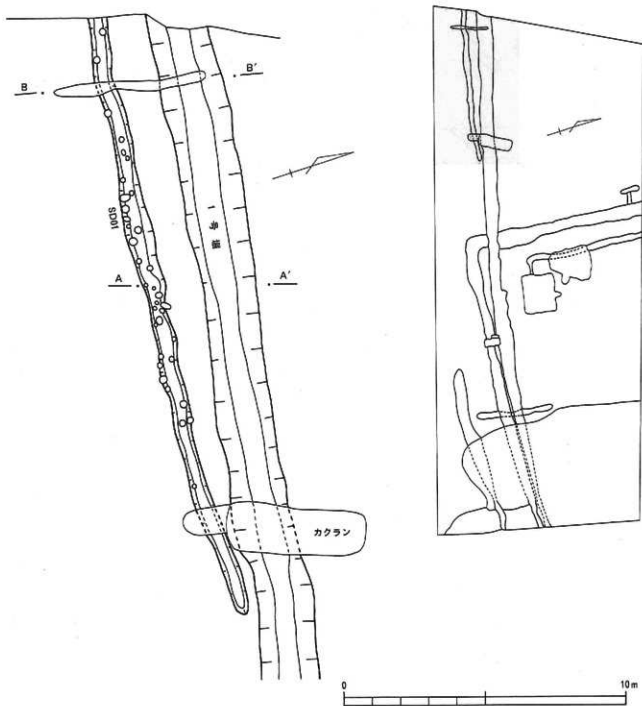
調査区のBからC杭ラインにかけて東西方向に約75m程一直線に延びるが、東側は後世の攪乱を受けている。切り合い関係が何箇所かで見られる。2号堀とは調査区中央付近で交差し、この堀に切られ、SD04にも切られるが東側の2号墳を切る。新旧関係は、2号墳→1号堀→2号堀→SD04となる。

堀の規模は、上幅1.5～2.0mで、下幅0.5～0.8m、確認面からの深さ約1.2mを測る。但し、現地表面からは50cmほど下げて確認しており、当然当時の堀の規模はもう少し大きなものであったと考えられる。尚、断面は逆台形の箱堀である。

埋土状況は、下層にローム粒、ロームブロックが多い黄色土層（7層）が入り、南側からの流れ込みの量が多いことから、南側に土塁状のものがあつた可能性がある。それより上層は自然堆積層である。出土遺物は中層から上層にかけて平安時代（第64図15～17）から中世にかけての遺物が混在して出土した。

2号堀

1号堀を切り、調査区の北東部をL字形に囲む。南西コーナー部から北へは約25m、西へは約42m程確認できた。堀の南側は1号堀と交差後、それとほぼ平行して走り、SD04に切られるが2号墳を切る。堀の規模は、上幅0.9～1.7mで、下幅0.2～0.5m、確認面からの深さ約0.75mを測り、1号堀に比べると規模が小さ



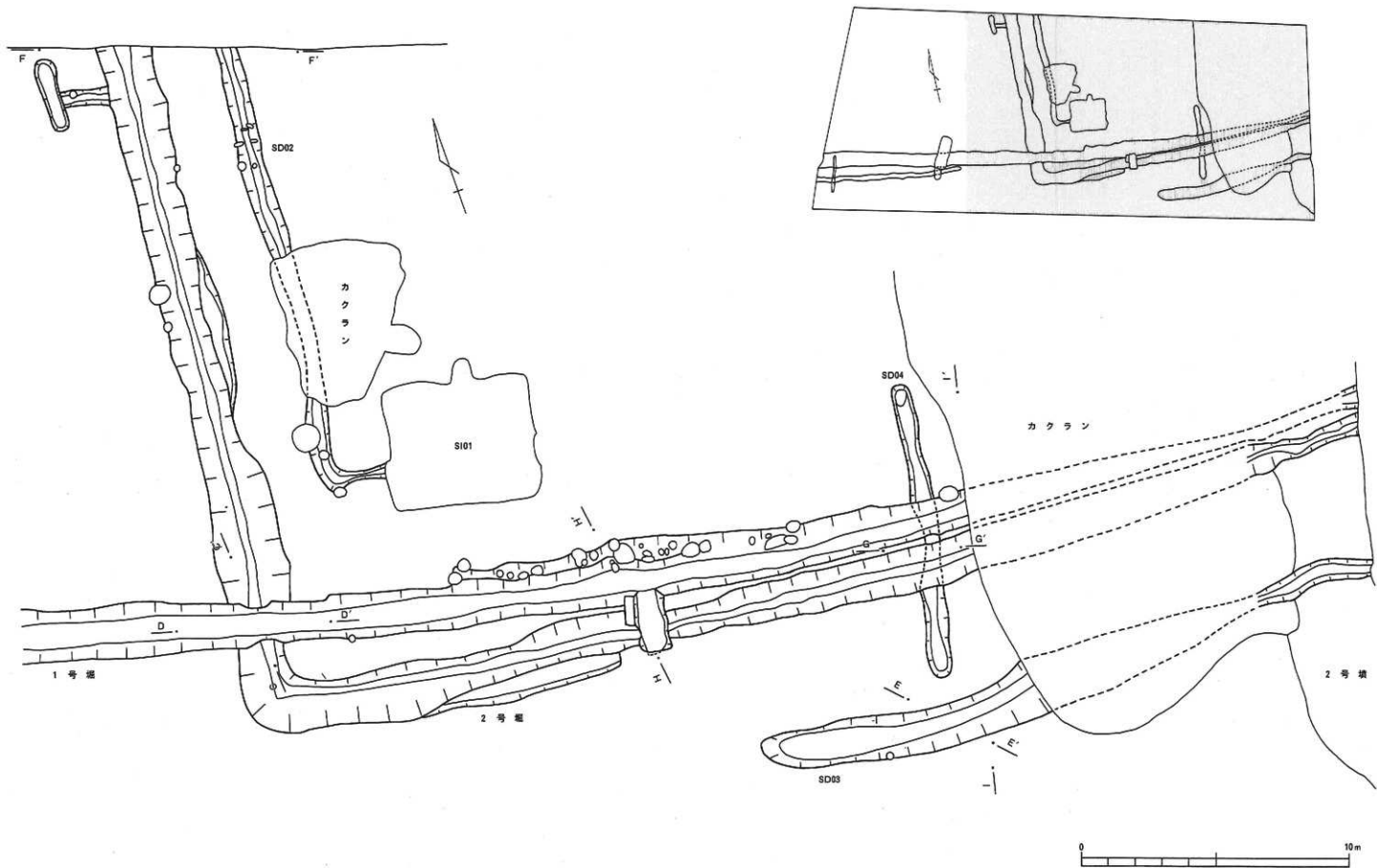
第61図 堀・溝平面図(1)

い。尚、断面は逆台形の箱堀である。

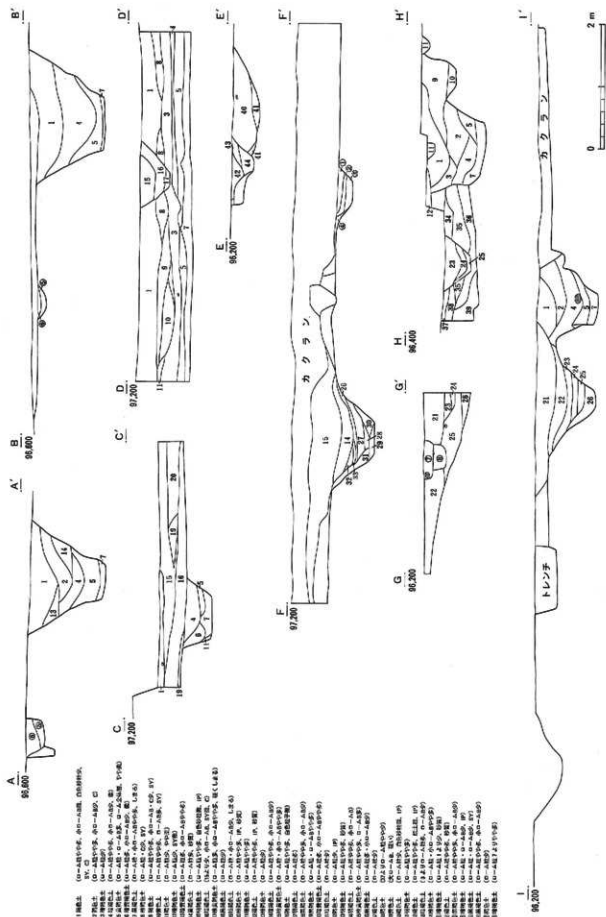
埋土状況は自然堆積である。

SD01

SD01は1号堀と切り合わず、1号堀と接する直前で立ち上がる。確認できた長さは約22mである。規模は、上幅0.5~0.6mで、下幅0.3~0.4m、確認面からの深さ約0.25~0.35mを測り、断面逆台形状を呈するが一部U字形の部分も見られる。また、溝内からは多数の柱穴が確認できた。埋土状況は自然堆積である。



第62図 堀・溝平面図(2)



1. 砂 (0-100%)
 2. 砂 (10-50%)
 3. 砂 (50-100%)
 4. 砂 (10-50%)
 5. 砂 (50-100%)
 6. 砂 (10-50%)
 7. 砂 (50-100%)
 8. 砂 (10-50%)
 9. 砂 (50-100%)
 10. 砂 (10-50%)
 11. 砂 (50-100%)
 12. 砂 (10-50%)
 13. 砂 (50-100%)
 14. 砂 (10-50%)
 15. 砂 (50-100%)
 16. 砂 (10-50%)
 17. 砂 (50-100%)
 18. 砂 (10-50%)
 19. 砂 (50-100%)
 20. 砂 (10-50%)
 21. 砂 (50-100%)
 22. 砂 (10-50%)
 23. 砂 (50-100%)
 24. 砂 (10-50%)
 25. 砂 (50-100%)
 26. 砂 (10-50%)
 27. 砂 (50-100%)
 28. 砂 (10-50%)
 29. 砂 (50-100%)
 30. 砂 (10-50%)
 31. 砂 (50-100%)
 32. 砂 (10-50%)
 33. 砂 (50-100%)
 34. 砂 (10-50%)
 35. 砂 (50-100%)
 36. 砂 (10-50%)
 37. 砂 (50-100%)
 38. 砂 (10-50%)
 39. 砂 (50-100%)
 40. 砂 (10-50%)
 41. 砂 (50-100%)
 42. 砂 (10-50%)
 43. 砂 (50-100%)
 44. 砂 (10-50%)
 45. 砂 (50-100%)
 46. 砂 (10-50%)
 47. 砂 (50-100%)
 48. 砂 (10-50%)
 49. 砂 (50-100%)
 50. 砂 (10-50%)
 51. 砂 (50-100%)
 52. 砂 (10-50%)
 53. 砂 (50-100%)
 54. 砂 (10-50%)
 55. 砂 (50-100%)
 56. 砂 (10-50%)
 57. 砂 (50-100%)
 58. 砂 (10-50%)
 59. 砂 (50-100%)
 60. 砂 (10-50%)
 61. 砂 (50-100%)
 62. 砂 (10-50%)
 63. 砂 (50-100%)
 64. 砂 (10-50%)
 65. 砂 (50-100%)
 66. 砂 (10-50%)
 67. 砂 (50-100%)
 68. 砂 (10-50%)
 69. 砂 (50-100%)
 70. 砂 (10-50%)
 71. 砂 (50-100%)
 72. 砂 (10-50%)
 73. 砂 (50-100%)
 74. 砂 (10-50%)
 75. 砂 (50-100%)
 76. 砂 (10-50%)
 77. 砂 (50-100%)
 78. 砂 (10-50%)
 79. 砂 (50-100%)
 80. 砂 (10-50%)
 81. 砂 (50-100%)
 82. 砂 (10-50%)
 83. 砂 (50-100%)
 84. 砂 (10-50%)
 85. 砂 (50-100%)
 86. 砂 (10-50%)
 87. 砂 (50-100%)
 88. 砂 (10-50%)
 89. 砂 (50-100%)
 90. 砂 (10-50%)
 91. 砂 (50-100%)
 92. 砂 (10-50%)
 93. 砂 (50-100%)
 94. 砂 (10-50%)
 95. 砂 (50-100%)
 96. 砂 (10-50%)
 97. 砂 (50-100%)
 98. 砂 (10-50%)
 99. 砂 (50-100%)
 100. 砂 (10-50%)

第63図 地・断面図

SD02

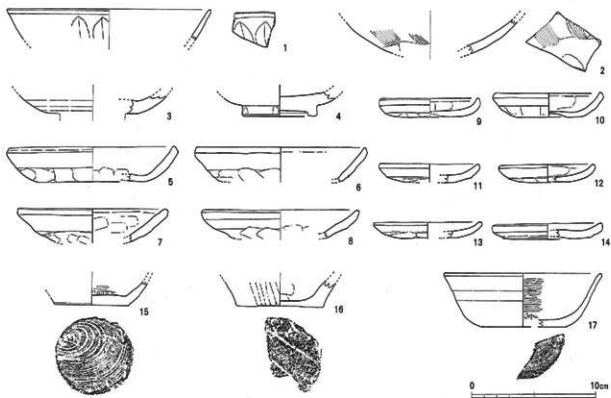
SD02は2号堀の西側と約16m程平行するが、南西コーナーを形成した辺りで無くなる。規模は、上幅0.8mで、下幅0.3m、確認面からの深さ約0.25mを測り、断面逆台形状を呈する。埋土は上層に砂質の層が確認できた。

SD03

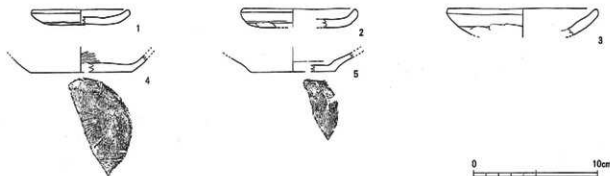
SD03は2号堀とやや平行するが、他の溝に比べると蛇行気味である。規模は、上幅1.7m、確認面からの深さ約0.45mを測り、断面U字形を呈する。埋土は自然堆積である。

SD04

SD04は1号堀・2号堀を切り、長さ約10mと短い。規模は、上幅0.6m、下幅0.3m、確認面からの深さ約0.35mを測り、断面逆台形を呈する。埋土は自然堆積である。



第64図 1号堀出土遺物実測図



第65図 2号堀出土遺物実測図

No	器種	寸法 (cm)	器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
1	青磁碗	口 (16.4)		外面に鑲蓮弁文。	灰緑色	緻密	良好	埋土中	破片
2	青磁碗			外面に菊目文。	くすんだ緑	緻密	良好	埋土中	破片
3	青磁碗				くすんだ緑	緻密	良好	埋土中	破片
4	青磁碗	底 (6.1)	台を付す。	高台外面まで軸がかり、臺付を含む外底無軸。	くすんだ緑	緻密	良好	埋土中	破片
5	皿(皿)	口 (13.8) 高 (2.5)	平底。	手づくね成形。	橙褐色	緻密	良好	埋土中	1/8残
6	皿(皿)	口 (13.8) 高 (2.8) 底 (8.6)	平底。	手づくね成形。	淡褐色	微砂粒	良好	埋土中	1/4残
7	皿(皿)	口 (12.2)	丸底気味。	手づくね成形。	褐色	緻密	良好	埋土中	1/3残
8	皿(皿)	口 (12.7)	丸底気味。	手づくね成形。	橙褐色	緻密	良好	埋土中	1/3残
9	皿(皿)	口 (8.2) 高 (1.5)	窪み底。	手づくね成形。	乳白色	微砂粒	良好	埋土中	1/2残
10	皿(皿)	口 (8.6) 高 (1.9)	窪み底。	手づくね成形。	淡褐色	砂粒、赤色 α 7粒	良好	埋土中	1/2残
11	皿(皿)	口 (8.1) 高 (1.9)	丸底気味。	手づくね成形。	赤褐色	微砂粒	良好	埋土中	1/8残
12	皿(皿)	口 (7.8) 高 (1.4)	丸底気味。	手づくね成形。	淡褐色	緻密	良好	埋土中	1/3残
13	皿(皿)	口 (7.8) 高 (1.3)	丸底気味。	手づくね成形。	赤褐色	緻密	良好	埋土中	1/3残
14	皿(皿)	口 (8.8) 高 (1.2)	窪み底。	手づくね成形。	淡褐色	微砂粒	良好	埋土中	1/3残
15	坏(皿)	底 (6.0)	平底。	ロクロ成形。内面ヘラミガキ、底部回転糸切り。	橙褐色	砂粒、赤色 α 7粒	良好	埋土中	破片 内面黒色処理
16	甕(皿)	底 (7.0)	平底。	木裏底。	黒褐色	砂粒、小石	良好	埋土中	破片 裏付着
17	坏(皿)	口 (12.9) 高 (4.3) 底 (6.8)	平底。	ロクロ成形。内面ヘラミガキ、底部回転糸切り。	橙褐色	砂粒、赤色 α 7粒	良好	埋土中	破片 内面黒色処理

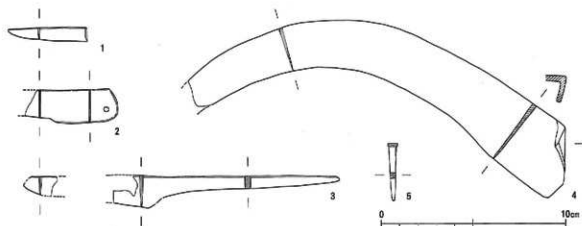
第16表 1号埴遺物観察表

No	器種	寸法 (cm)	器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
1	皿(皿)	口 (7.7) 高 (1.3)	丸底気味。	手づくね成形。	淡褐色	砂粒、赤色 α 7粒	良好	埋土中	1/2残
2	皿(皿)	口 (9.0) 高 (1.5)	丸底気味。	手づくね成形。	褐色	微砂粒	良好	埋土中	破片
3	皿(皿)	口 (12.0)		手づくね成形。	乳白色	緻密	良好	埋土中	破片
4	坏(皿)	底 (8.2)	平底。	ロクロ成形。内面ヘラミガキ、底部回転糸切り後手持ちヘラケズリ。	橙褐色	砂粒	良好	埋土中	破片 内面黒色処理
5	坏(皿)	底 (6.8)	平底。	ロクロ成形。内面ヘラミガキ、底部回転糸切り。	乳白色	砂粒	良好	埋土中	破片

第17表 2号埴遺物観察表

4 鉄製品

1～3はSI08から出土した。1は刀子の切先で、現存長4.2cm、幅0.8cmである。2は不明鉄製品で現存長5.0cm、幅1.2cm、目釘穴状のものが1孔穿たれている。3は刀子で、途中で欠損するが、推定全長17.3cm、茎長9.6cmである。4はSI10出土で、大型の鉄製曲刀鎌である。現存長20.5cm、最大幅3.6cmである。着柄部はほぼ直角に曲がる。5は1号墳周辺での表採の釘である。長さ3.1cm、幅0.3cmで、断面四角である。



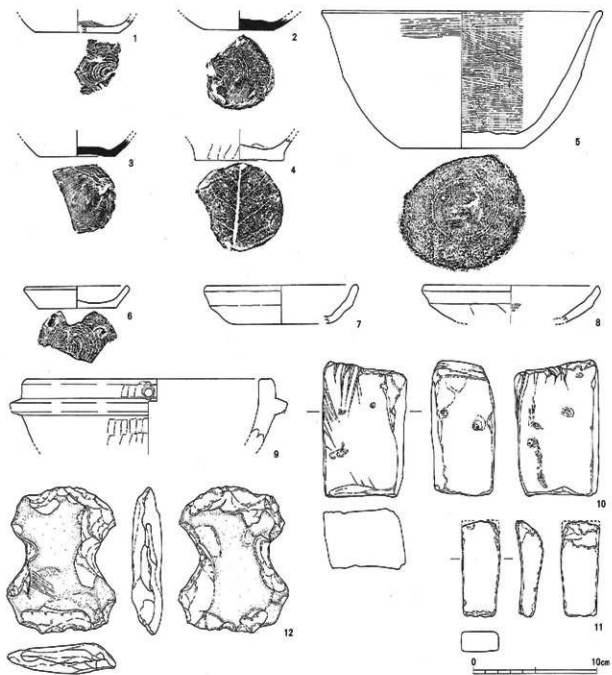
第66図 鉄製品実測図

5 遺構外出土遺物

調査区内からは、縄文～中世にかけての遺物が表採できた。縄文時代の遺物は12の石斧のみである。古代の遺物は1～5で、住居跡出土物と同時期のものである。中世の遺物は6～9で、1号・2号掘出土遺物とはほぼ同時期のものである。10と11の砥石については時期が不明であるが、10は刀のような鋭利な刃物の傷痕が観察でき中世的な感じを受ける。以上の遺物についての詳細は第18表のとおりである。

No	器種	寸法 (cm)	器形の特徴	調査の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
1	坏(H)	底 (6.8)	平底。	ロクロ成形。内面ヘラミガキ、底部回転糸切り後手持ちヘラケズリ。	灰褐色	砂粒	良好		1/2残 内面黒色処理
2	坏(S)	底 (5.6)	平底。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	灰色	微砂粒	良好	B-5 枕付近	1/4残
3	坏(S)	底 (6.2)	平底。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	灰褐色	微砂粒	良好	B-5 枕付近	1/4残 ヘラ記号有り
4	甕(H)	底 (7.1)	平底。	木築底。	暗褐色	砂粒	良好	B-7 枕付近	破片
5	鉢(H)	口 (22.6) 高 (11.0) 底 (10.0)	平底。	ロクロ成形。内面ヘラミガキ、底部回転糸切り。	褐色	砂粒	良好		1/2残 内面黒色処理
6	皿(H)	口 (8.5) 高 (1.8) 底 (6.4)	平底。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	明褐色	微砂粒、赤色 \times 17粒	良好		完形
7	皿(H)	口 (12.2) 高 (3.1)	丸底気味。	手づくね成形。	乳白色	微砂粒	良好	D-10 枕付近	1/4残
8	皿(H)	口 (14.4) 高 (3.1)	丸底気味。	手づくね成形。	褐色	砂粒、赤色 \times 17粒	良好		破片
9	坏(H)	口 (20.2)	断面正台形の甕で、胴上に裏取手穴があり、口縁は直立する。外面に細かいノミ痕がみられる。		灰色	滑石			破片 外面に煤附着
10	砥石	長さ(10.3) 幅 (6.1) 厚さ(4.8)	直方体で、刃物痕が数ヶ所に残る。		灰色	凝灰岩		S101 付近	完形
11	砥石	長さ(7.7) 幅 (3.0) 厚さ(1.6)	直方体で、反った面に使用痕跡が残る。		灰色	凝灰岩		1号堀付近	一部欠損
12	打製石斧	長さ(11.7) 幅 (8.7) 厚さ(2.4)	分製型、両面とも自然面が残る。		灰色	安山岩		1号堀付近	完形

第18表 遺構外遺物観察表



第67图 遼構外出土遺物実測図

IV. まとめ

1 古墳時代

今回の調査において2基の古墳が確認できた。本遺跡の立地する台地縁辺には中～後期にかけての古墳群が点々と築かれている。その中でも中期の中心的古墳群となるのが、西方約2kmに位置する塚山古墳群である。後述するが、この塚山古墳群の築造時期に併行して本古墳群も築造されている。

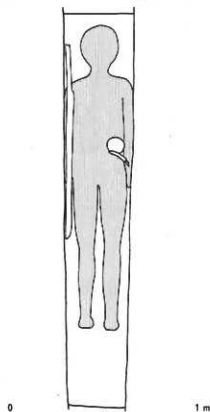
①築造時期について

それでは、主体部及び周溝から遺物が出土し、時期の検討が可能な1号墳を中心にみでみる。

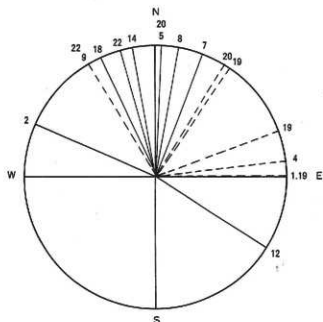
周溝出土の土器は、層位から2つに分かれるが、その型式からはほぼ同時期のものと考えられる。これらは雷電山遺跡分類の環A、C類、埴B類と類似する(今平1994)。この時期に共伴する須恵器はTK23段階のものである。

1号主体部出土の鉄鍬は、長頸鍬と短茎鍬に分かれる。長頸鍬は杉山氏分類(杉山1988)のB形式-第I形式-第1型式とB形式-第II形式-第2型式とC形式-第IV形式-第1型式の3種類がみられ、短茎鍬はA形式-第II形式-B類がみられる。この組み合わせは、氏のⅤ期に位置づけられ、須恵器でいえばTK23、TK47併行期にあたる。

2号主体部出土の鏡は、青銅製の乳文鏡である。(注1)内区文様は、5個の乳の間に獣形の簡略化されたものが充填されている。外区は、素縁で、鋸齒文-複波文(3波)-櫛齒文-鋸齒文で構成されている。これは森下氏が言う斜縁鋸波鋸文が5世紀中葉から変形が進む流れの中で、鋸齒文と櫛齒文の文様構成の入れ替わったものの一つ(森下1993)として位置づけることができる。また、波文が2本でなく3本であるが、

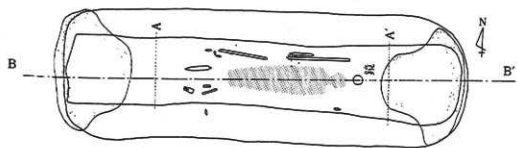


第68図 埋葬時復元想定図

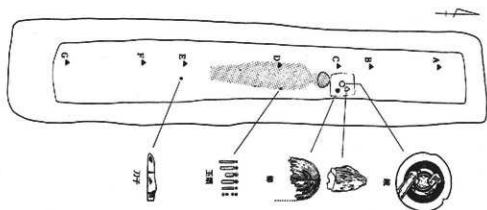


※1 ----- は那須地域の古墳
※2 番号は第19表№と一致

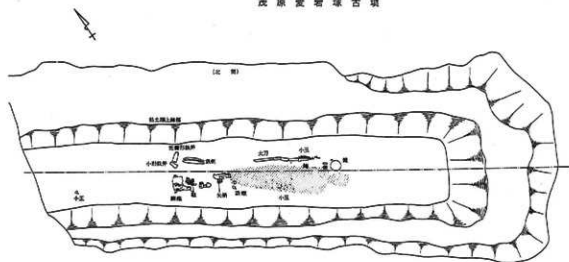
第69図 県内の埋葬頭位



駒形大塚古墳



茂原要遺塚古墳



山王寺大塚古墳

0 1 m

※スクリーントーンの人形は加筆

第70図 鏡出土位置関係比較図

この例は、本県では雀宮牛塚古墳出土変形獣文鏡や益子町天王塚古墳出土仿製六獣鏡に見られ、近県では東京国立博物館所蔵の行田市須加字中郷出土の四獣鏡等に見られる。尚、行田市例では一緒に鹿角装刀子も出

土している。

以上、遺物の検討から1号墳の2基の主体部の被葬者は5世紀末に相次いで埋葬されたものと考えられる。

②埋葬施設について

1号墳からは2基の主体部が確認できたが、両者とも地山に掘り込みをもつ地下式構造である。このような例は、第19表(注2)の吉田新宿6号墳(9)、神主38号墳(4)、塚山5号墳(8)、蛭田富士山D-15号(4)のみで、どれも規模が20m未満の小規模墳である。これらは周溝の規模が小さい点から、元々墳丘自体が高くない低墳丘の古墳であったと考えられる。

また、2基の主体部は小口及び床面に粘土を使用し、壁面に炭化した木質片が数カ所確認できたことから木棺を使用していた可能性が高い。このように要所に粘土を使用する例は、那須八幡塚古墳(4)のように両小口に使用するものがしばしば見られるが、本墳の場合はさらに床面まで粘土が敷かれており、より粘土層を意識した造りのようにみえる。尚、2号主体部の北壁の両角において、粘土が凹んだ状況で確認できたことから組合せ式木棺の可能性もある。

③埋葬頭位及び副葬品の位置関係について

第68図は、第2主体部の埋葬時復元図である。調査時にも感じたことであるが、最大幅が40cm弱とかなり窮屈な感じがする。しかし、県内で5世紀の後葉から見られる箱式石棺の短軸内法幅の平均が約39cmであることからすると、このクラスの墓としては平均的なものと言える。

図中の人形は、当時の身長を約160cmと想定し(鈴木1983)、副葬品との位置関係を見てみた。当然、被葬者が子供であった場合にはこの想定が成り立たないが、鏡及び1m近い直刀を持っていることから成人と考えた。また、頭位については、第69図からもわかるように県内においてN-30°-W~N-35°-Eのものが多いことから北枕と考えた。余談になるが、那須地域の古墳の頭位が古墳時代前期において東優位であることが小林氏により指摘されているが(小林1989)、中期の酢屋古墳(9)、蛭田富士山D-15号(4)の時期までその傾向が強い点は地域性を考える上で興味深い。これに対し県央部は北優位のものが多い。

以上の想定に立ち、被葬者と鏡、直刀等の位置関係を考えてみると、直刀は遺体の右肩及び右腕上に乗せ、鏡と刀子は左腰の上に置かれたものと考えられる。直刀は丁度肩部付近で折れた状態で出土していることから、柄の部分が右肩よりやや迫り出した形で置かれた可能性がある。尚、県内の古墳への刀剣副葬率は、前期、中期古墳とも6割弱で、殆どが体の右側に直刀あるいは剣が置かれている。

また、鏡には細かに編まれた繊維が鏡面及び鏡背に付着していることから布状のもので包まれていたと考えられ、さらに鏡上面から木質片が出土していることから刀子とともに箱のようなものに入っていた可能性がある。第70図の茂原愛宕塚古墳や山王寺大樹塚古墳でも、鏡蓋に入れて鏡が埋納されていた可能性が指摘されている(前沢1977)。但し、第70図の3つの古墳との違いを見せるのは鏡の置かれた位置である。今尾氏は鏡の副葬について、弥生~古墳前期にかけて頭優位の配置であったものが、中期にはその原則から外れる位置に鏡を配置する古墳があることに注目されている(今尾1989)。今尾氏の指摘どおり、前期の3古墳は頭優位の位置に鏡が置かれている(注3)のに対し、本墳はその原則から外れる。しかし、ほぼ同じ時期と考えられる桑57号墳は頭優位の位置と言え、この件に関しては今後類例の増加をまち再度検討してみたい。

以上のことから、本墳は、前・中期の同規模の古墳に比し、副葬品の内容が豊富である。また、塚山古墳群中の5号墳は、規模及び時期がほぼ本墳と同じで、主体部の要所に白色系の粘土を使用している点で共通する。これらのことから、本墳の被葬者は、塚山古墳群の勢力下に入り、かつ鏡を下賜される立場あるいは功績があった人物と考えられる。

2 平安時代

今回の調査においてわかったことを簡単にまとめておく。

①調査区内におけるこの時期の遺構は、竪穴住居跡6軒と掘立柱建物跡2棟である。全体的に調査区の南側に集中していることから、集落自体はさらに南側に展開するものと考えられる。このことは周辺遺跡のところでも述べたように南方約300mにある宮の内1丁目遺跡や、さらにその南にある宮の内A遺跡・宮の内B遺跡との位置関係から考えてこの一帯が大規模な集落であった可能性があり、それらの資料との比較検討により、本住居跡群の位置づけを行う必要がある。

②遺構同士の切り合い関係はないが、SI09とSI10との間隔が2m弱と近接している。また、カマドの付け替えがSI08で2回、SI09で1回ある。さらに、SI09はその際に住居の拡張も行っている。

③方位は、SI09とSB06以外はN-4°-E~N-7°-E内である。尚、SI06の南壁の直交線を主軸とした場合、SI09とほぼ同じN-5°-Wとなる。

④坏類を簡単に分類してみる。底径がA6.5cm以上のものとB6.5cm未満のもの、底部切り離し及び調整技法がa手持ちヘラケズリ、b回転糸切り、cヘラ切りのものとする、第20表ようになる。須恵器坏の6割弱がbによる底部切り離しであることから三義山麓窯跡群産のものと考えられる。津野氏の編年（津野1988）によるとBb類は大芝原窯B地点段階に位置づけられる。

⑤土師器甕は、A武蔵型甕、B常総型甕、Cその他に分かれ、C類の多くは長銅で口縁部が短く「く」字に屈曲し、外面粗いタテ方向のヘラケズリを施すものである。

⑥墨書土器「真」「千二」「十」カ「男」カ等が出土している。

以上の点から、9世紀後半の集落跡で、②と③から同時期の中で若干の変遷があったと考えられる。

	坏										甕			高台付 坏	鉄 器	紡 錘 車	灰 釉 陶 器		
	須恵器					土師器					須 恵 器	土師器							
	Aa	Ab	Ba	Bb	Bc	Aa	Ab	Ba	Bb	A		B	C						
SI01	2		1	1		1	1				2	1	3		4				
SI06				1	1						2	1	2	1					
SI07				1				1					○		1			1	
SI08	1	2		1				1			2		○		1	1	3		1
SI09											1				3			1	
SI10		1			1			1							1	1			

第20表 器種構成表

3 中世

出土遺物を見ると、近世以降のものもあるが遺構に伴うものがほとんどなく検討不可能なため、ここでは主に中世の遺構についてまとめてみた。

①掘の切り合い関係は1号掘→2号掘→SD04の順であり、SD01は1号掘の手前で立ち上ることからこの2遺構が同時期の可能性があり、SD02は2号掘とほぼ平行することから、この2遺構も同時期と考えられる。

②事実記載のところで述べたように土層観察から、1号掘の南側に土塁状のものがあった可能性があり、また中世の建物等も南側に多く集中することから、1号掘は南側を囲んだものと想定される。一方、2号掘は南西角が確認できたことから北側を囲んでいたものと考えられる。

③調査区南東部において、東側に掘立柱建物跡がかたまり、西側に竪穴建物跡がかたまっている状況が窺える。掘立柱建物跡はその重複関係から最低2時期はあったものと考えられる。尚、竪穴建物跡は、ST03を除いた3遺構は比較的掘り込みが浅く、ST04とST05は炉をもつ。他のこの時期の所謂「方形竪穴」が掘り込みが深くて火処を持たないのとは対照的で住居跡として使用された可能性も考えられる。

④土師器皿は、所謂「カワラケ」と呼ばれるもので、そのほとんどは手づくね成形である。口径が12~14cmで器高3cm前後のもの、口径が8~9cmで器高1.5cm前後のもの、の大小がある。大の方は口縁端部に「面取り」がみられるものが多く、伊野氏のJタイプに分類できる(伊野1995)。明確な「面取り」が見られるものがあることから、12世紀後葉~13世紀前半の時期に位置づけられる。県内では国分寺町下古館遺跡1121号地で類例が見られる。このタイプの土師器皿は、1号掘、2号掘、ST04、ST05、SB19、SK34、SK92、SK104で出土している。尚、1号掘、2号掘の覆土中のロクロ土師器は古代のものであり、古代の集落を壊して堀を掘削した結果混入したものとする。

⑤中国製陶磁器は、1号掘からは龍泉窯系青磁碗I-5b類と外面に縦方向の帯描文を施す同安窯系青磁碗が、ST04からも割花文を施す同安窯系青磁碗が出土している。図示はしていないが、SD01からも1号掘出土の同安窯系青磁碗と同じものが出土している。この他にも表採で青磁が占める割合が比較的多い。染付は近世以降のものが多くみられるが、小野氏分類染付皿E群が1点確認された(小野1982)。また、図示していないが、2号掘覆土上層から小破片であるが染付が出土している。

⑥瀬戸や常滑などの国産陶磁器は量的に少ない。時期の分かるものとしては、図示はしなかったが常滑焼の口縁部破片(中野3型式)(中野1995)が1号掘から出土している。

⑦その他に時期の特定できる遺物としては石鏡が出土している。その形状から木戸分類Ⅲ類-a-2(木戸1995)と考えられる。

以上のことから、1号掘、SD01、ST04、ST05、SB19、SK34、SK92、SK104は12世紀後葉~13世紀前半の時期に位置づけられる。2号掘も覆土中のほとんどの遺物がこの時期の土師器皿で占められていることから1号掘に継続して掘られた可能性が高いが、⑤でも述べたように、覆土上層から染付の小破片が出土しており、その解釈次第では時期の検討が必要となる。

何れにしてもその主体は、12世紀後葉~13世紀前半の時期であり、服部敬史氏の中世Ⅱ期に位置づけられる(服部1997)。氏が指摘するように、この時期の下野における中小居館跡の発見例が少ないため、十分な検討をするに至らないが、同時期の下古館遺跡と若干比較検討してみる。

下古館遺跡は南北480m、東西160mの長方形に巡る堀により囲まれている。調査を担当した田代隆氏によれば、その中央には南北に貫く「道」が存在するとのことである。また、出土遺物には土師器皿、青磁、白

磁等の中国製陶磁器、瀬戸、常滑の国産陶磁器のほか、石鍋等の石製品、鉄鍋等の鉄製品など遺物が豊富に出土している。一方、本道跡は、一部分の調査であるため推測の域を出ないが、今回確認された1号堀部分を北辺とし南側に展開する方形の居館跡の可能性が考えられる。また、石鍋や青磁等、あまり一般の集落では見られないものが出土している。そして、現在でも本道跡から西方約500mのところを国道4号が南北にはしり、近世には日光街道が、そして中世の奥大道もこの周辺を通過していた可能性が高い。さらに本道跡をほぼ真北に向かって約5kmほど進むと中世宇都宮氏の居城である宇都宮城に到達する(第71図)。

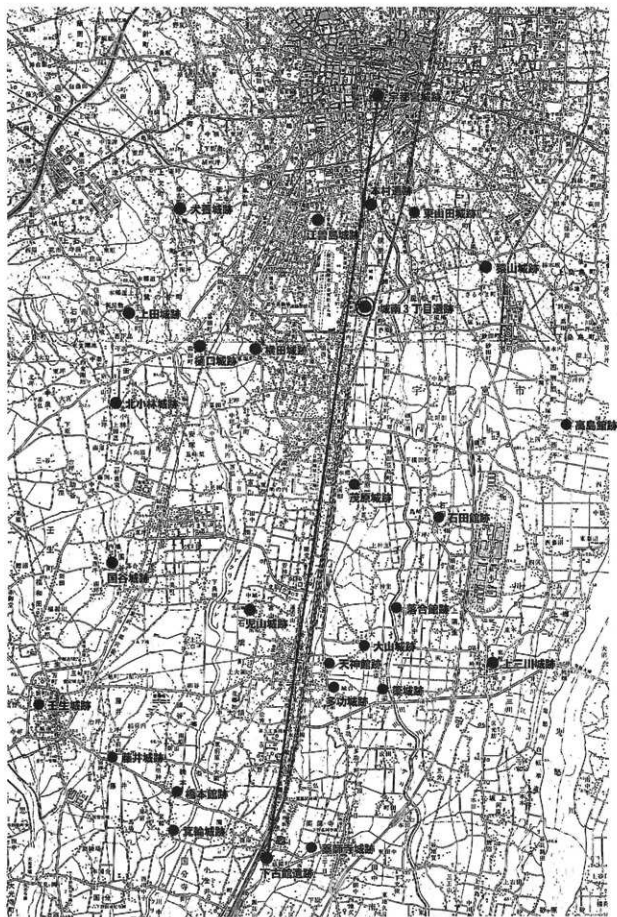
このように2つの道跡とも「道」との関係が窺え、また、その成立時期が12世紀後葉～13世紀前半という鎌倉幕府成立前後の時期である点は興味深い。

(注)

- 1 これまで内区文様が獣形の簡略化されたものであるという立場から、この鏡の名称を変形獣形鏡としてきた。本報告書作成に際し、車崎正彦氏にご指導を賜ったところ、内区文様が乳を主体に構成されていることから乳文鏡が妥当であるとのコメントをいただいた。乳文鏡も獣形鏡の系譜の鏡群と考えられており、今後、この部分の整理の必要性を車崎氏は説かれていたが、現時点での最良の呼び方として、乳文鏡が妥当なことであるので、本報告をもって名称の変更をさせていただく。
- 2 第19表は県内の堅穴系主体部の一覧である。但し時期を限定し、おおよそ前～後期初頭とした。また、時期区分は前方後円墳集成の小森氏の編年に準拠している(小森1994)。
- 3 山王寺大樹塚古墳の鏡の出土位置は、報告書では胸部上を想定している。本論では他の2古墳のガラス小玉等の出土が手首あるいは腕付近に位置することから手玉と想定した。そのため山王寺大樹塚古墳でもその位置関係から、第70図のような想定をしてみた。尚、今尾氏は、肩胛付近での鏡の出土例として、会津大塚山古墳や前橋天神山古墳を挙げている。

(参考文献)

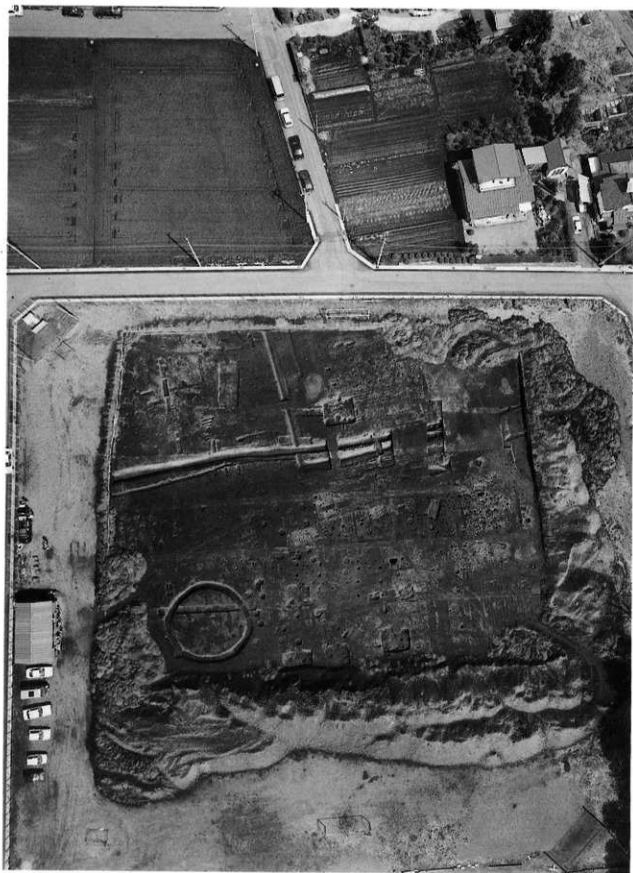
- 秋元陽光・斎藤弘 1984「芳賀郡二宮町大和田富士山古墳について」『栃木県考古学会誌』第8集
- 石部正志他 1994『上神主浅間神社古墳・多功大塚古墳』上三川町教育委員会
- 伊野近富 1995「1. 土師器皿」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編
- 小野正敏 1982「15～16世紀の染付碗・皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.2
- 大川清他 1991『栃木県小川町吉田温泉神社古墳墳形確認調査報告』小川町教育委員会
- 大川清他 1978『栃木県湯津上村野原古墳群』湯津上村教育委員会
- 大川清他 1986『栃木県小川町大森道跡・谷田1号墳』小川町教育委員会
- 大和久震平 1969『築57号墳発掘調査報告書』小山市教育委員会
- 大和久震平他 1972『蛭田富士山古墳群』栃木県教育委員会
- 大和久震平 1984『牛塚古墳』宇都宮市教育委員会
- 木戸雅寿 1995「13. 石鍋」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編
- 久保哲三他 1990『茂原古墳群』宇都宮市教育委員会
- 小林隆幸 1989「2. 前期古墳の埋葬頭位」『保内三王山古墳群』三条市教育委員会
- 小森哲也 1987『新田山古墳群』『益子町史』第1巻
- 小森哲也 1994『第5章下野』『前方後円墳集成』関東東北編



第71图 中世主要道跡分布图

- 今平利幸 1994「Vまとめ」『雷電山遺跡』宇都宮市教育委員会
- 齊藤光利 1987『朝日観音遺跡』南河内町教育委員会
- 杉山秀宏 1988「古墳時代の鉄鏝について」『橿原考古学研究所論集』第八 吉川弘文館
- 鈴木 尚 1983『骨から見た日本人のルーツ』岩波書店
- 津野 仁 1988「岩舟町日陰沢・大芝原窯跡採集の須恵器と瓦」『栃木県考古学会誌』第8集
- 中野晴久 1995「〔2〕常滑・瀬美」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編
- 中村享史他 1997『温泉神社北遺跡』栃木県教育委員会
- 前沢輝政 1955「佐野市八幡山古墳調査概報」『古代』第16号
- 前沢輝政 1977『山王寺大樹塚古墳』早大出版部
- 前沢輝政他 1985『助戸十二天古墳第1次・第2次発掘調査』足利市教育委員会
- 三木文雄他 1957『那須八幡塚古墳』吉川弘文館
- 三木文雄 1986『那須駒形大塚』吉川弘文館
- 森下章司 1993「仿製鏡の変遷」『季刊考古学』第43号 雄山閣
- 八巻一夫他 1979『県営圃場整備事業地内遺跡発掘調査報告書』栃木県教育委員会
- 山越 茂 1979「文殊山古墳」『栃木県史』資料編考古二
- 山越 茂 1976「上待塚古墳・下待塚古墳」『栃木県史』資料編考古一・二
- 山ノ井清人 1984「山崎第1号墳」『真岡市史』第1巻考古資料編

写 真 图 版



①城南3丁目遺跡全景（上空より）



①1号墳全景 (南東より)



②2号墳調査風景



③1号墳出土状況 (西から)



④周溝南側坏出土状況 (南から)



⑤周溝南側遺物出土状況



①周溝掘出土状況（西から）



②1号墳1号主体部完竣状況（南から）



③1号墳1号主体部（北から）



④1号墳1号主体部セクション（北から）



⑤1号墳1号主体部遺物出土状況（西から）



⑥1号墳2号主体部全景(1)（南から）



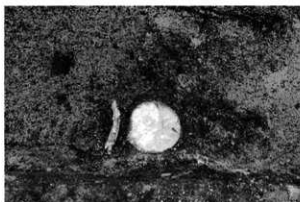
⑦1号墳2号主体部全景(2)（南から）



① 1号墳 2号主体部セクション (南から)



② 1号墳 2号主体部遺物出土状況 (西から)



③ 2号主体部鏡・鹿角装刀子出土状況 (東から)



④ 2号主体部直刀出土状況 (東から)



⑤ 2号墳全景 (南から)



⑥ SI01完掘全景 (南から)



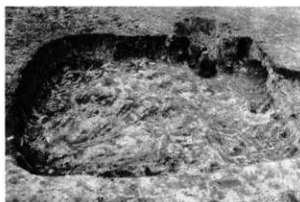
⑦ SI01遺物出土状況 (東から)



①SI01北東コーナー要出土状況（東から）



②SI01カマド遺物出土状況（南から）



③SI06全景（南から）



④SI06遺物出土状況（南から）



⑤SI06カマド遺物出土状況(1)（南から）



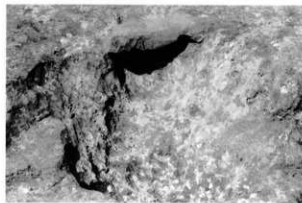
⑥SI06カマド遺物出土状況(2)（東から）



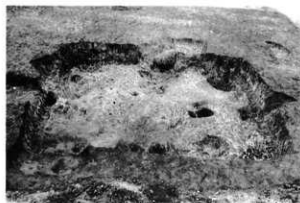
⑦SI07全景（南から）



⑧SI07遺物出土状況（南から）



①SI07カマド (南から)



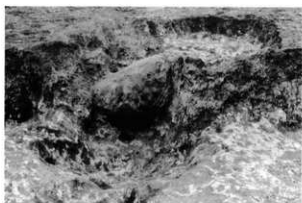
②SI08全景 (南から)



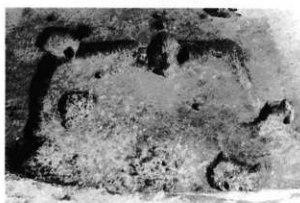
③SI08セクション (西から)



④SI08遺物出土状況 (南から)



⑤SI08カマド (南から)



⑥SI09全景 (南から)



⑦SI09遺物出土状況 (北から)



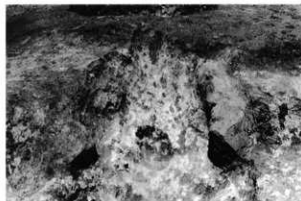
⑧SI09北カマド (南から)



①SI10全景 (西から)



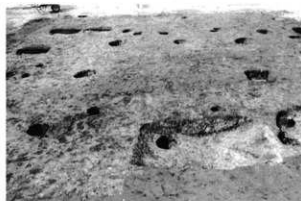
②SI10遺物出土状況 (西から)



③SI10カマド (南から)



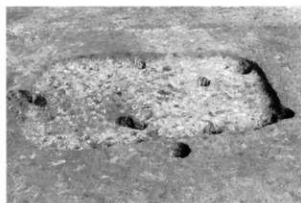
④SI10カマド遺物出土状況 (南から)



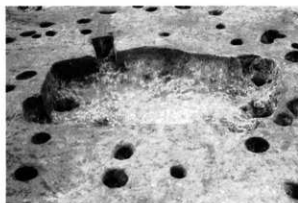
⑤SB05全景 (南から)



⑥SB06全景 (南から)



⑦ST02全景 (南から)



⑧ST03全景 (東から)



①ST04全景 (南から)



②ST05全景 (南から)



③SK11完掘状況 (南から)



④SK25セクション (西から)



⑤SK56セクション (東から)



⑥SK57セクション (東から)



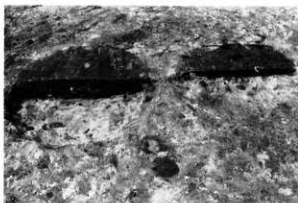
⑦SK59・58セクション (東から)



⑧SK64完掘状況 (南から)



①SK64セクション (南から)



②SK70・69セクション (南から)



③SK73完掘状況 (東から)



④SK78完掘状況 (西から)



⑤SK90~93完掘状況 (南から)



⑥1号堀完掘状況 (東から)



⑦1号堀・1号溝 (東から)



⑧1号堀・1号溝セクション (東から)



① 1号・2号堀交差点部調査風景



② 1号・2号堀交差点部完掘状況 (南東から)



③ 2号堀セクション (南から)



④ 1号・2号堀交差点部 (南から)



⑤ 1号・2号堀交差点部遺物出土状況 (北西から)



⑥ 1号・2号堀C-7ライン杭 (東から)



⑦ 1号・2号堀C-8ライン杭手前 (東から)



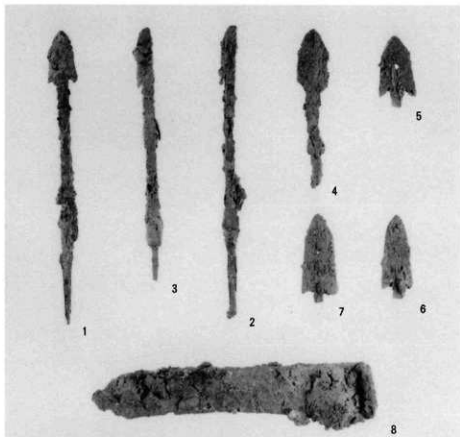
⑧ 3号溝 (東から)



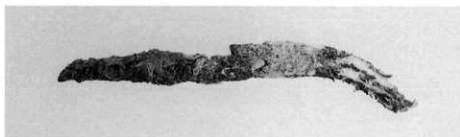
① 1号墳1号主体部出土遺物（第4図）



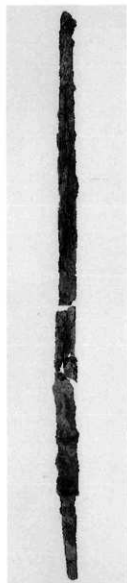
② 2号墳出土遺物（第13図）



① 1号墳 1号主体部出土遺物 (第7図)



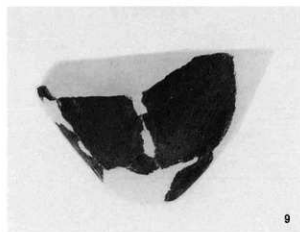
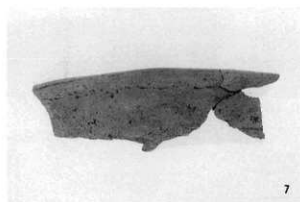
② 1号墳 2号主体部出土鹿角装刀子 (第10図)



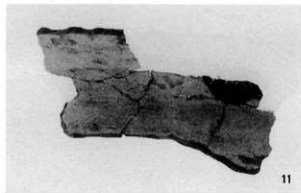
③ 直刀 (第11図)



④ 1号墳 2号主体部出土銅鏡 (第9図)



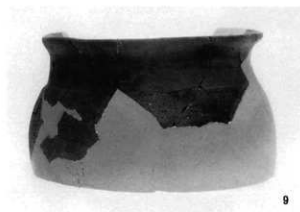
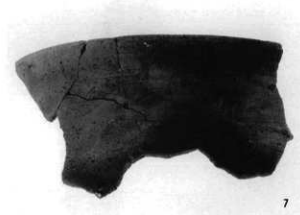
①SI01出土遺物(1) (第16図)

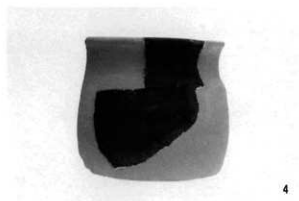


①SI01出土遺物(2) (第16・17図)



②SI06出土遺物(1) (第20図)

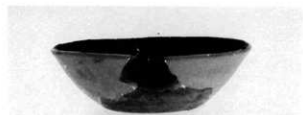




①SI07出土遺物 (第23図)



②SI08出土遺物(1) (第26図)



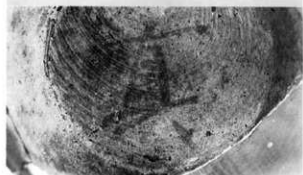
6



7



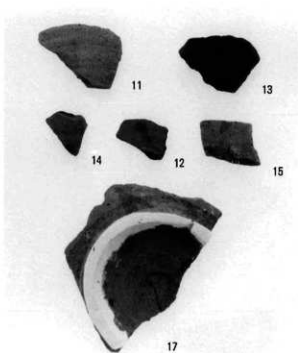
8



9



10



11

13

14

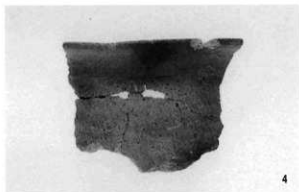
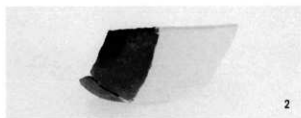
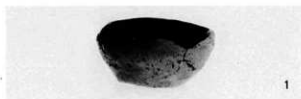
12

15

17



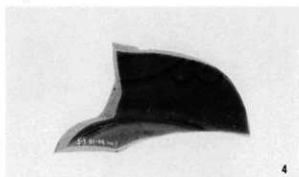
16



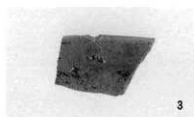
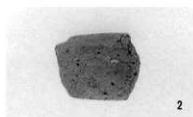
①SI09出土遺物 (第30図)



②SI10出土遺物 (第33図)



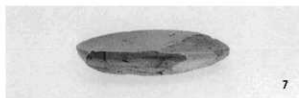
①ST04出土遺物 (第39図)



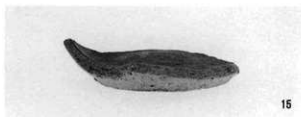
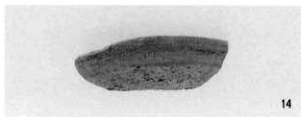
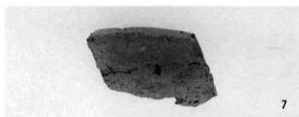
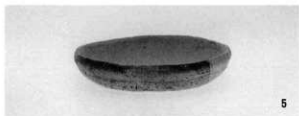
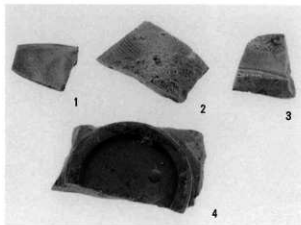
②ST05出土遺物 (第41図)



③SB19出土遺物 (第56図)



④土坑出土遺物 (第60図)



① 1号掘出土遺物 (第64図)



② 2号掘出土遺物 (第65図)



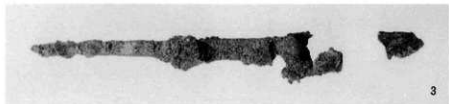
1



2



5



3



4

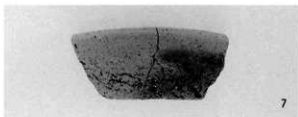
①鉄製品 (第66図)



5



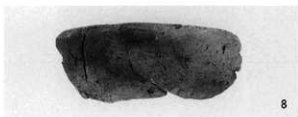
6



7

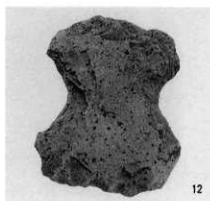


9



8

②濠構外出土遺物(1) (第67図)



①遺構外出土遺物(2) (第67図)



発掘調査指導風景

報告書抄録

ふりがな	じょうなんさんちょうめいせき
書名	城南3丁目遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	第39集
編著者名	今平利幸
編集機関	栃木県宇都宮市教育委員会
所在地	〒320-8540 栃木県宇都宮市旭1-1-5 Ⅷ028-632-2764
発行年月日	西暦1996年(平成8年)3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
城 南 3 丁 目 遺 跡	栃 木 県 宇 都 宮 市 城 南 3 丁 目			36 度 分 秒	139 度 分 秒	(I次) 19930111 ～ 19930531	5,400	スケート 場建設予 定地

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
城南3丁目遺跡	古墳	古墳時代	古墳 2	鏡・鉄鏃・直刀・鹿角装刀子・鎌・土師器	1号墳は2基の主体部をもつ。
		平安時代	住居跡 6 掘立建物跡 2	土師器・須恵器・刀子・鎌	
	中世	竪穴建物跡 4 掘立建物跡 15	土師器・青磁・石槨		
	近世以降	堀 2 溝 2			
		溝 2			

宇都宮市埋蔵文化財調査報告第39集

城南3丁目遺跡

平成8年3月発行

発行 宇都宮市教育委員会文化課
(宇都宮市旭1-1-5)
TEL (028) 632-2764

印刷 下野印刷株式会社
(宇都宮市宝木町1-28)
TEL (028) 622-6953
